

発酵の里・健康笑顔のまち

こう

ざき

特集 神崎発酵ものがたり

60周年特別企画
笑顔で迎える60年



座談会◎
人と大地に魅せられて
イラストマップ◎
発酵する町 神崎めぐり



発酵の里・健康笑顔のまち

こうざき

みんなで創る健康・安心・子育て応援のまち





目次

Contents

[60周年特別企画]

笑顔で迎える60年.....2

[特集]

神崎発酵ものがたり.....4

こうざき元気印の発酵名鑑.....8

イラストマップ●発酵する町 神崎めぐり.....10

発酵の里育ちの名産品.....12

発酵の里の未来を担う 子ども達の食育学習事情を紹介!!.....13

座談会●

人と大地に魅せられて

[新・定住者が語り合う神崎の魅力].....14

国土交通省選定 重点「道の駅」！ 道の駅「発酵の里こうざき」.....16

みんなで創る こうざきプラン [神崎町第4次総合計画].....18

震災復興のあゆみ.....24

神崎町60年史.....26

御宝巡景.....28

暮らしを彩る施設ガイド.....30

KOZAKI TOWN MAP.....31

発酵の里こうざき 歳彩ごよみ.....32

DATAでみる神崎.....33

発刊によせて

神崎町長 石橋 輝一



昭和30(1955)年4月19日に旧神崎町と米沢村が合併して、今年で60年という節目の年を迎えましたことに、この上もない慶びを感じます。神崎町は、千葉県の北東部、利根川をはさんで茨城県と接する位置にあり、平坦で肥沃な土壌を活かした稲作などの農業が基幹産業で、江戸時代から米や大豆などの豊かな農産物を原料として、酒、みそ、しょうゆなどの発酵食品づくりが盛んで、「発酵の里」として着実に発展してまいりました。これも、ひとえに町民の皆様、並びに関係各位の並々ならぬご指導、ご協力の賜であると深く感謝申し上げます。

今年、道の駅「発酵の里こうざき」がオープンし、新たな神崎町としてスタートすることになります。大きな可能性を持つ施設を町の活性化の拠点として、町民皆様の参画により、夢と希望が持てる、次世代に誇れるまちづくりに取り組んでまいります。

ここに、合併60周年を記念して、町の歴史を振り返り、今後の更なる発展の礎となることを願い、記念誌を発刊させていただきました。先人が歩んできた町の歴史を共有し、町政に対する理解や関心をより一層深めていただく一助となれば幸いです。

平成27年3月



笑顔で迎える60年

楽しいことが
たくさんあるよ



神崎町。ここは、やさしい気持ちがぶくぶく湧き出し、人から人へぬくもり広がる“発酵の里”。
なんじゃもんじゃいきいきフェスティバル2014の会場で、60の素敵な笑顔に出会いました。

大丈夫！
私にまかせなさいい。

お茶飲んでいきなよ〜。



特集

神崎

Kozaki
Fermentation
Story

発酵

ものがたり

神崎町は、利根川水系の肥沃な土壌と豊かな水源に恵まれ、古くから酒の醸造をはじめとした発酵産業が盛んな町。近年の健康志向によって昔ながらの発酵食文化が見直され、千葉県一小さなこの町に、いま熱い視線が集まっています。

神

崎町では、良質な水、米、大豆を生かした酒、みそ、しょうゆ等の醸造業が発達し、かつてはそれらを利用根川の水運で江戸へ運ぶため、多くの店が河岸周辺の街道に軒を連ねてにぎわっていました。最盛期には、半径500メートル程度の範囲に7軒もの造り酒蔵があり、「関東の灘」と呼ばれることもありました。また、利根川沿いの平坦で肥沃な土壌がもたらす豊かな農産物を元に、みそやしょうゆも競って造られていました。

明治31(1898)年2月に、成田鉄道・郡駅(こおり)(現在のJRR下総神崎駅)が開業すると、鉄道の発達などとともに利根川の水運は廃れ、醸造業は衰退の途をたどります。年々シャッターを下ろす商店が増えるなど、町の活気は次第に色あせていきました。

そのような中、往年のにぎわいを知る2軒の蔵元は今も変わらず醸造業を続け、名酒を世に送り出しています。「仁勇」で知られる鍋店と、「五人娘」の寺田本家。いずれも江戸時代から300年以上醸造を続ける老舗です。

例年、新酒が出そろう3月になると、2軒の酒蔵は各々に蔵を一般開放してお祭りを行い、地元で親しまれてきました。平成20年に入り、一方の酒蔵から2つのお祭りを同日開催する案が持ち上がりました。

酒蔵から町中へ 広がる「発酵の里」づくり

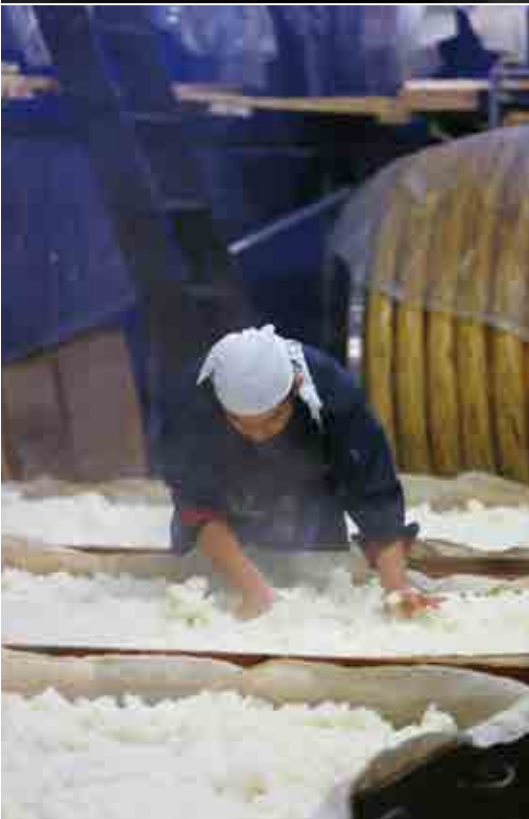
町

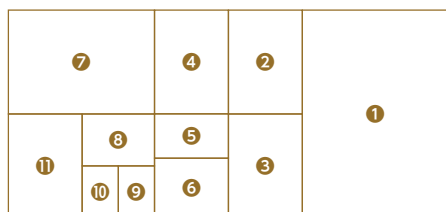
が間に入って調整を進め、商工会や地元の商工業者、農家、周辺住民も巻き込んで、平成21年3月、町をあげてのお祭り「発酵の里こうざき酒蔵まつり」が開催されました。

当日は蔵見学や日本酒の試飲、販売のほか、さまざまな催しが行われ、会場に来場者2万人が集まりました。翌年にはマスメディアに取り上げられ、J・R東日本が新宿駅発の臨時列車を運行すると、前年を大きく上回る3万5千人が訪れました。

「発酵」で町に笑顔があふれる

この祭りの成功をきっかけに、発酵文化をキーワードにした官民一体のまちおこしが始まりました。発酵食品や循環型農法をテーマに集まった酒蔵や農家に、町外から新規就農、新規出店してきた移住者も加わり、まちおこしの機運が高まってきました。また、神崎町も、町のイメージアップと活性化を見込み、「発酵の里こうざき」としてのまちづくりを進めるようになりました。





①米を蒸す間に翌日分の米を洗う ②仕込み唄を歌い昔ながらのものとすり作業 ③蒸し米を冷ます(①～③は寺田本家) ④むろの中で種しりをする ⑤貯蔵タンクで熟成させる ⑥米の蒸し加減を手で確認(④～⑥は鍋店神崎酒造蔵) ⑦来場者ひしめく街道沿い ⑧神崎町観光大使・門戸竜二さんによるおいらん道中 ⑨⑩発酵にちなんだ出店が並び ⑪試飲を楽しむ来場者(⑦～⑪は酒蔵まつり)

平成24年1月には「全国発酵食品サミット」を開催して、「発酵の里こうざき」を全国に発信しました。さらに平成25年には「発酵の里こうざき」の名称を商標登録し、町のキャラクター「なんじゃもん」を制作しました。

平成26年の酒蔵まつりには、発酵食品や地元産品、オーガニック食品などを扱う約200店舗が出店し、町の人口の8倍近くとなる約5万人が来場。こうして千葉県一小さな町の酒蔵まつりは、関東一の規模に発展を遂げたのです。

平成26年4月には、町を南北に貫く首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の茨城県稲敷IC(インターチェンジ)と神崎IC間が開通しました。平成27年4月に開業する「道の駅 発酵の里こうざき」は、町の発酵文化発信拠点として、町内はもちろん、多方面から多くの期待が寄せられています。



こうぎき元気の印の 発酵名鑑

清酒「仁勇」「不動」で知られる鍋店は、元禄2年(1689)に成田山新勝寺門前で酒造りを開始しました。明治年間に広まった日本酒の需要に応え、神崎を含め3つの地域に出蔵を設けるも、戦時中の企業整備令によって他の蔵を閉鎖し、水質の良い神崎の蔵に醸造を集約させました。平成9年から外部の杜氏に頼らず、全工程自社スタッフによる酒造りをしています。品質管理の行き届いた酒造りで飲む人の心を捉え、定評を得ています。

醸造元 鍋店



受け継がれた
酒造りの精神で
時代に挑む



第19代蔵元
大塚完さん

鈴木仁さん



今では少なくなった糴店には、町内はもちろん、旭市、銚子市など町外からも依頼が集まります。創業明治27年(1894)の鈴木糴店は、米農家から米を預かり、米糴に加工して戻すほか、地場産などの大豆を使ったみそ、塩糴も製造販売しています。糴造りは年中温度に気を遣う仕事ですが、適正に温度管理をすれば、蒸し米が綿毛のような菌糸に包まれて、昔ながらの道具「こうじぶた」の中で「花」を咲かせます。

鈴木糴店

花咲く糴は、
徹底管理の
たまもの



自分で育てた農産物を加工・販売する仕事をしたいと考え、神崎町で農業研修を受けた福士さん。パン作りに最適な酒粕酵母と出合っって一念発起。平成21年に神崎町でパン屋を開業させました。国産小麦、国産大豆の豆乳、酒蔵の仕込み水などこだわりの素材を、町内の蔵元・寺田本家の玄米酒粕や、鎌倉時代の製法で作った自家製どぶろくから起こした酵母で発酵させたパンは、「体に優しい」「噛むと素材の味が広がる」と評判です。

福ちゃんのパン



毎日でも
食べたくなる
健康パン



福士智之さん

発酵の里こうざき しょうゆ造り教室

明治10年創業のフジハン醤油では、昭和60年頃で途絶えたしょうゆ醸造の復活を志し、その第一歩として、平成26年より体験教室を開催しています。この教室では、伝統的なしょうゆ造りの工程を学びながら仕込みを体験するほか、近代化産業遺産に指定されている蔵の見学も行われます。ペットボトルに仕込んだもろみは持ち帰って1か月半ほどで発酵を始め、約1～2年でしょうゆになります。



1原料は国産の大豆、小麦、塩 2講師はフジハン醤油6代目の高橋半治さん
3しょうゆ蔵と煙突

みそ造り講習会

神崎町味噌造り研究会が主催するみそ造り講習会は、地元で減農薬栽培された米・大豆、天然塩を原料に、参加者それぞれ「発芽玄米糀みそ」を仕込み、造ったものを参加者各自で持ち帰ることができる毎年評判の講習会です。毎年12月から2月の間に計8回開催され、町外からの参加者も多く集まります。作業が終わった後には、前年仕込んだみそを使ったみそ汁などの食事が振る舞われます。



1自宅では難しい作業も専用機械で楽に 2講師は神崎町味噌造り研究会の神山一雄さん 3健康に良いとされる発芽玄米糀を使う 4作業後のお楽しみ



24代目当主
寺田優さん

原点に戻り、
自然に学ぶ
酒造り

醸造元 寺田本家

延宝年間（1673～1681）創業

の寺田本家では、日本酒離れが進み市場の停滞が続く中、あえて全行程手作りの昔ながらの酒造りを実践しています。江戸時代の伝統的な酒造りを続ける酒蔵は全国的にも珍しく、注目を浴びています。また、平成22年からは原料米を全て無農薬米に切り替え、自然に栽培された原料を、稲麴を自家培養した菌で発酵させています。酒造りの中から生まれたノンアルコール乳酸発酵飲料（マイグルト）も人気があります。



昔ながらの味、
手間をかけて
家族で守る

平甚酒店



かつては平野甚兵衛酒造として酒造業を行っていた平甚酒店。現在は神崎町、香取市の地酒を販売するカタワラ、自家製の糀から、みそ、甘酒、ひしほ（もろみそ）、奈良漬を家族で作作り、販売しています。原料となる大豆や米は地元農

家によるもので、瓜は自宅畑で種から無農薬で育てたものを使用。「糀がしっかりと、発酵加減に気を配り、100%の出来を目指してじっくり自然発酵させています。」



平野秀明さん

新目市

毎月第3土曜10時からお昼頃まで、目のとうふ駐車場で開催。新鮮野菜や卵、おやつが人気。



子どもたちが喜ぶとうふドーナツ。孫のためにと、まとめ買いしていくファンもいる。

「手間暇かける理由はズバリ、手焼きの方がおいしいから」



地元はやまう醤油を使ってせんべいを一枚一枚丁寧に手焼き。平たく割れないように焼くのは熟練の技！

山川米菓

発酵する町 神崎 女祭り



おすすめはカレー！味をよりマイルドにするため、日によつては寺田本家の乳酸発酵飲料を加えることもあるのだとか。

福ちゃんのパニ

寺田本家の発井玄米酒粕や自家製どぶろくの発酵力を使って作るパン。素朴にこだわりの見た目はシンフルながらも、かめばかむ程味がい深くなる。



中はおもちりしっとり

三楽食堂

金曜夕市

毎週金曜16～19時開催。野菜や卵、惣菜のほかコーヒーも飲める。季節ごとのイベントも楽しい！



会場は旧町役場庁舎(☆の場所)



粒がないから色々な料理に使いやすいと評判！



鈴木花店

創業明治27年の老舗花屋さん。自家製みそには薪でじっくりゆくり煮た大豆を使うからふくらみおいしい！

ゆうゆう 気取らず気さくに話ができる町内唯一の喫茶店。店内では、有機野菜の他、みそや発酵飲料など、町の発酵食品も買える。

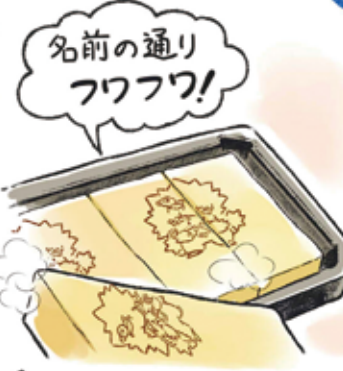


あまりの心地よさに、つい長居してしまう...

356

くすくす笑店

神崎で隠れた人気の惣菜店。看板メニューのふれたまは神崎にある椿ファームの卵を使った塩麹入りの卵焼き。



名前の通り、フワフワ！

おかべ観音



敷地内には「法乳泉」と呼ばれる湧き水がある。昔からこの水を飲むと母乳がよく出るようになる、とい伝えられている。

イラスト担当：麻 地元福島の小中学校で「米」の食育授業を通して、米に興味をもち、縁あって神崎へ。

夕のとうろ

神崎の地大豆が持つ強い香りと甘みを生かした濃厚な豆腐で豆腐の常識を覆す。
せひ、しょう油をかけずに食べ、みこ下さい

神崎産の菜種油で揚げたがんも、さっと焼いて酒の肴に。

ほかに、おいらん道中も見もの!!

山林菓子舗

銘菓「なんじゃもんじゃ干なり」は神崎の発酵全盛期ともいえる江戸時代、船人が航行の目印にした神崎の森をかたどったおまんじゅう。手作りで大きさが均一にそろったのは、その道60年の職人技!

銘菓「なんじゃもんじゃ干なり」は神崎の発酵全盛期ともいえる江戸時代、船人が航行の目印にした神崎の森をかたどったおまんじゅう。手作りで大きさが均一にそろったのは、その道60年の職人技!

寺田本家

機械や添加物をやめ、自然にまかせて人の力で酒を造る全国的にも珍しい酒蔵。醸す酒はどれも個性的。

米の乳酸発酵飲料「my gurt」
「マイフルト」
種類も追いつかない酒類。



平基酒店

元々は造り酒屋だったが、昭和初期から地酒の小売に切り替え、かつて酒造りに使った蔵は、今も糀やみそ造りに活躍している。昭和18年までは「神の森」という酒を造る酒蔵だった。試飲もできるので、お酒選びに困った時は「ここぞ相談」

神山酒店

地元のお酒や食品を扱う町の酒屋さんだが、昭和18年までは「神の森」という酒を造る酒蔵だった。試飲もできるので、お酒選びに困った時は「ここぞ相談」

筆フジハン醤油

近代化産業遺産に指定されている旧米蔵しゅうゆ蔵。店舗は繁栄時期以外は見学できる。(要事前申込)一般を対象に開催する「しゅうゆ造り教室」ではペットボトルを使った「しゅうゆ造り」が体験できる。

鍋店神崎酒造蔵

千葉県トップクラスの生産量を誇る酒蔵。近代的な設備と、徹底した品質への管理でラインナップを充実させて幅広い飲み手の心を掴んでいる。



こうざき自然遊歩道

菜の花の蜜を吸ったミツバチが屋上の巣箱に。絵は私が描きました。

ハチミツラベルの事業も行っている。

こうざき自然塾

有機質の肥料を使って地球に優しいお米づくり。地大豆の生産に力を入れている。

「黒大豆みそ」「発芽玄米」みそは、自社農場・めぐみ農場で育てた大豆使用。

神崎産菜種100%使用の「なたね油」もオスス。

わくわく西の城

看板商品は「不動の一度火入れ」自然に滴り落ちる酒を集めた「不動」しぼりは、香りと味わいが違う。

サークル活動などの町民活動が行われる公共施設。ここでは、食料エネルギーを自給する自給「コミュニティ」の創造に向けて、養蜂事業も行っている。



麦

神崎で栽培される小麦は、11月頃に種をまき、4月頃には穂が出て花が咲きます。収穫は6月頃です。



大豆

発酵の里には欠かせない神崎の大豆。国内でも先進的な土地改良による広大な転作田で作付けされています。香りや甘みが強い緑色の在来種大豆や丹波黒大豆など、個性豊かで粒ぞろいです。



そば

神崎では主に10月下旬から11月上旬に収穫する秋そばが栽培されています。秋には白や赤色の花が畑一面に広がります。



米

北総の豊かな米どころとして昔から米作りが盛んな神崎。生産者のこだわりが詰まった、安心して食べられる高品質のお米です。

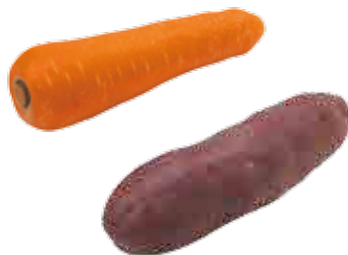


菜の花

神崎では、菜種油を搾るためのナタネが作付けされており、搾った油は芳醇な春の香りを放ちます。開花の頃は、鮮やかな黄色のじゅうたんがほ場に広がります。

にんじん

土壌と水質に恵まれた神崎は、にんじん生産の好適地。通年出回りますが、旬は5月下旬～6月、12月～3月です。



梨

太陽の光をたっぷり浴びて育つ神崎の梨。旬は8月～9月。品種によって10月下旬頃まで楽しめます。



ラフランス

食べ頃を見極めると、芳醇でまろやかな舌触りを堪能できます。9月～12月頃に多く出回ります。

さつまいも

北総台地の火山灰土でじっくり育てられる神崎産さつまいも。9月～11月に収穫のピークを迎えます。

いちご

真っ赤に熟した神崎のおいしいいちご。11月から出回り始め、12月下旬～3月に旬を迎えます。



バラ

「町の花」に制定されているバラ。さまざまな品種が栽培され、毎年6月に出荷のピークを迎えます。



小川米菓 こうざきせんべい

神崎産の上質なしょうゆを使い、備長炭の炭火で焼き上げた昔ながらの煎餅。一枚一枚丁寧に裏返す手焼き煎餅の味は、食べれば違いがわかります。



小林菓子舗 なんじゃもんじゃ千なり

神崎神社の大クス「なんじゃもんじゃの木」と、「ひょうたん山」の愛称で親しまれる神崎の森に由来する銘菓。和菓子コンクールなど数々の賞を獲得した逸品です。



NPO法人ワーカーズコープ はちみつ「神ぱち」

ふくよかで上品な甘みの神崎産はちみつ。季節によって香りや色が微妙に異なる百花蜜です。わくわく西の城ほか町内各店で販売。

肥沃な土壌と良質な水源に恵まれた神崎町は、北総の早場米産地として知られる米どころであり、野菜や果物、バラに代表される花きの栽培も盛ん。一年を通じてたくさんの「おいしい」が生まれています。

発酵の里育ちの名産品

発酵の里の未来を担う 子ども達の食育学習事情を紹介!!

～大豆から育てるみそ仕込み体験授業～

神崎・米沢小学校の3年生は、一年を通してみそ仕込みを体験しています。7月の大豆の種まきに始まり、大豆の収穫、みその仕込みまでを実際に体験することで、農作物を作ることの大変さや発酵食品の素晴らしさを実感できる、発酵の里ならではの取り組みです。



大豆の収穫は手作業で、一粒ずつ殻から取り出します。



12月

大豆の収穫



7月

大豆の種まき



炎天下、大豆を一粒ずつ手でまいて砂をかけていきます。



茹でた大豆をつぶして、こうじと塩を混ぜてから、丸めてタルにつめていきます。完成するのは1年後です。

2月

みその仕込み



10月

枝豆の収穫

莢にたくさん実った枝豆を収穫し、畑で茹でて食べました。茹でたての味は最高です。



1年後には



今年仕込んだみそも1年後には発酵して栄養満点、旨みもアップ。このみそは、給食で使われ、皆でいただきます。

座談会 人と大地に魅せられて

新・定住者が語り合う神崎の魅力

大都市では得られないものが、身近にたくさんある小さな町。「自分らしく暮らす」という視点で改めて神崎町を見てみると、人と大地の温もりに包まれた、魅力の宝庫と言えるでしょう。

この町に移り住み、暮らしを満喫する5人の皆さんに、住み心地や地域への思いを語り合っていました。



豊かな自然と人にひかれて神崎へ

——神崎町に移住したきっかけと、皆さんが感じた町の魅力を教えてください。

東浩史さん(以下東) 私は埼玉県川口市に住んでいましたが、勤務先の成田市周辺で家を探し、引っ越しを機に妻の両親と同居しました。神崎町を選んだ決め手は、自然の豊かさです。人口約60万人の市から約6千人の町に移り住んだわけですが、最初に驚いたのは地元の子どもたちがよくあいさつをしてくれること。素晴らしい町だと感動しました。

椿千春さん(以下椿) 私は銚子市から神崎町に嫁ぎ、海から山へ、核家族から3世代同居へと生活環境が大きく変わりました。神崎町の魅力は、四季折々の自然の美しさ。春は水田に月の光が反射し、夏は緑、秋は黄金色のじゅうたんとなり、冬は霜柱で一面真っ白に染まります。素晴らしい環境で生活し、子育てできることに心から感謝する毎日です。

青木秀幸さん(以下青木) 私の携わるNPO活動で、以前から神崎町の皆さんと交流がありました。そこで出会った方に親身にサポートしていただいたことが移住のきっかけです。もう一つ、東日本大震災を機に、果たして都市に住み続けることが安全・安心につながるのか、改めて考えさせられました。神崎町は、安心して暮らせる町だと感じています。

阿南愛さん(以下阿南) 私は四国出身、夫は神奈川県出身で、成田の農業研修で知り合って結婚しました。ちょうど「発酵の里こうざき」が動き出そうとしていた時期で、私たち夫婦も「発酵の里協議会」に呼んでいただき、町内外の人が一緒になって盛り上げていこうという気運に満ちていました。人の縁にも恵まれて神崎町に移住し、今は夫の両親と一緒に無農薬・循環型農業をしています。

池田孝幸さん(以下池田) 私は皆さんと違い、第二の人生をゆとり過すために移住しました。東京

に通えるエリアから福島方面まで幅広く検討した結果、神崎町の温暖な気候と、新しく造成されインフラが整った藤の台の環境、さらに故郷の最上川とよく似た利根川の風景などにひかれ、この地を選びました。今は仕事のため東京と千葉を行き来していますが、休日は神崎町でのんびり農業をしています。

地域にとけ込んで心地よく暮らす

——実際に神崎町に住んでみて、改めて気付いたことや感じたことは？

池田 藤の台は30代から40代の若い移住者が多く、「これからみんなで自分たちの新しいまちをつくっていくこう」という雰囲気を感じられます。また、阿南さんのような若い農業従事者を、積極的に受け入れる土壌もありますよね。

阿南 そうですね。知り合った方に畑を借りると、「うちの畑も借りない？」と別の方が声をかけてくれたり、無農薬農業についても徐々に認めていただったりしています。周りにまだ空いている畑がありますので、若い農業仲間を増やしていきたいです。椿 私は看護師を退職し自分探しをする中で、神崎町には若い農業従事者が少ないことに気がきました。我が家の農業も町の農業も守りたくて心機一転、両親に農作業を教わりながら、自分なりに有機野菜づくりに取り組んで5年になります。農業を始めてから地域社会や慣習への理解が深まり、家族の風通しが良くなり、地域活動にも積極的に参加しています。

東 浩史さん

埼玉県出身。成田市の福祉法人施設に勤務。子育て環境と通勤の利便性を考え、平成18年に川口市から神崎町に移住。引っ越しを機に妻の両親と同居し、夫婦と子ども2人の6人暮らし。自然の豊かさや充実した子育て支援策に大満足。

椿 千春さん

千葉県出身。平成13年に銚子市から神崎町に嫁ぎ、夫の家族と同居。看護師を退職後、子育てをしながら一念発起して農業に従事。JAかとり神崎女性支部、赤十字奉仕団、保健推進委員など地域活動にも意欲的に取り組む。7人家族、2児の母。

青木 秀幸さん

山梨県出身。大学進学を機に千葉県へ。平成26年に千葉市から神崎町に移住し、妻と2人暮らし。都市と農村の交流をテーマに循環型地域社会を目指すNPO法人トージバ理事。ソーシャルリノベーター&一級建築士・博士(工学)。

阿南 愛さん

香川県出身。農業研修で知り合った神奈川県出身の夫と結婚。発酵の里の取り組みに魅力を感じ、平成22年に神崎町に移住。2年後、夫の両親も移住し同居。現在は家族4人で無農薬・循環型農業を行い、葉物類から根菜類まで幅広く栽培。

池田 孝幸さん

宮城県出身。大学進学を機に千葉県へ。定年を間近に控え田舎暮らしのできる土地を探し、平成20年に神崎町に家を購入。鎌ヶ谷市の自宅から都内に通勤しながら、週末田舎暮らしを開始。退職後は神崎町で妻と2人、農業を趣味として暮らす計画。

青木 農業は、異世代交流や地域交流のきっかけを与えてくれますよね。私自身が移住に際して不安だったのは、利便性です。でも実際に住んでみると、金曜夕市で新鮮な食材が手に入り、知り合いから野菜をいただくことも多く、日常生活に支障はありません。大型店がなくても不便を感じず生活できるのは、私にとって新鮮な驚きです。

東 私は10年以上以上都内で勤務し、銀座まで電車で30分の場所に住んでいましたので、正直なところネオンのない神崎町でやっていけるのか不安に思っていました。でも、すんなりと適応でき、青木さんと同じで支障なく生活しています。利便性より何より、子どもたちが自然の中ですくすく育つのを見る喜びの方が大きく、大満足です。

小さな町の魅力を元気に発信！

——今後、神崎町をどのような町にしていきたいですか？

椿 町に残る古き良き伝統を生かしたうえで、新しいものを築いていってほしいと願っています。また、子どもや高齢者へのサービスが充実していますが、今後さらに充実させ、すべての住民が安心して元気に暮らせる町であってほしいですね。より良い町にするため、私にできることは喜んで協力します。

東 町の人口が減ると行政サービスも縮小してしまうので、人口増につながる施策に力を入れてほしいと思います。農業や酒蔵まつり、また、子どもや高

齢者への充実したサービスも町の魅力の一つ。そうした点をアピールしつつ、雇用対策や少子化対策に力を入れてもらえば、小さな町でも人口が2倍3倍に増える可能性はあるでしょう。

青木 私が重視しているのは、人のつながりの強さを活かした防災のまちづくりです。また、豊かな自然とおいしい食べ物を生かした、里山と食による子育て応援まちづくりもアピールしたいですね。中心市街地の活性化も必要で、移住者にその担い手になってもらうのも一つの方法です。若い世代のチャレンジを積極的に応援すれば、もっと移住者が増えるでしょう。

阿南 私の言いたいことを、全部皆さんが言ってくれました(笑)。それ以外には、酒蔵まつりが注目されているので発酵の里を核とした観光のまちづくりもできそうです。観光案内を充実させたり、発酵の里の要所を巡る観光ロードを設定したりして、神崎町の魅力が目に見えるようにしたいですね。

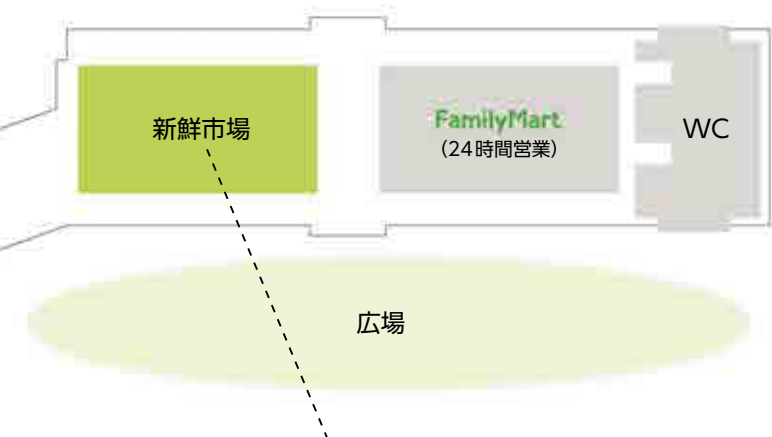
池田 ぜひ神崎町に要望したいのは、町民が常にまちづくりに参加できるようにすることです。町には多様な能力やキャリアを持つ方がいますので、その力をまちづくりに生かせば面白いことができるでしょう。人口約6千人の小さな町であることを武器にして、みんなで話し合い、人のつながりの中で自分を高め、心豊かに暮らす。今日集まった5人の力を合わせただけでも、小さな町で大きな存在感を打ち出せると思いませんか？(一同賛同)

(平成26年1月10日 於…わくわく西の城)



FEATURE

国土交通省選定 重点「道の駅」! 道の駅 「発酵の里こうざき」



地元から持ち寄られる
新鮮作物がいっぱい



お米やいも類をはじめ、近隣農家で収穫されたとびきり新鮮な農作物がいっぱいの新鮮市場

平成26年4月に開通した圏央道神崎インターチェンジの隣接地、国道356号線沿い松崎地先に、平成27年4月、千葉県内で24番目となる道の駅「発酵の里こうざき」がオープン。神崎町は「発酵の里」として、日本で育まれた発酵食品の素晴らしさを、ここから世界に向けて発信していきます。まちの新たな観光交流拠点として整備された「発酵の里こうざき」は、駐車場やトイレなどの一

般的な道の駅の設備に加えて、発酵メニューを取りそろえた「カフェ&レストラン」や、町内はもろろん、全国各地の発酵食品を紹介する「発酵市場」を設けた、発酵文化の発信基地です。農産物直売所やイベント広場もあり、地域振興の面で今後さまざまな活用が期待されています。また、災害時には広域避難所として活用できる防災拠点関連設備も充実しています。

道の駅「発酵の里こうざき」

※平成27年4月オープン

所在地：千葉県香取郡神崎町松崎855番地
(国道356号線沿い)

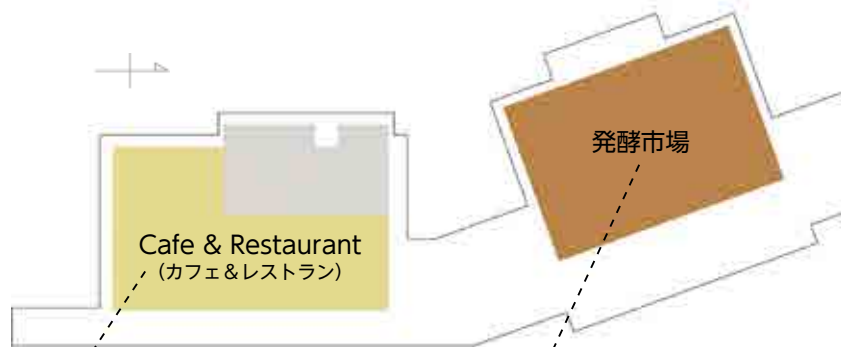
施設面積：14,200㎡

休憩施設：駐車場75台、EV充電施設、トイレ男女計29器

その他施設：カフェ&レストラン、発酵市場、新鮮市場
コンビニエンスストア、イベント広場



※P16・17に掲載している画像はいずれも計画段階のイメージです。



発酵食品や主に地元の農作物を使った料理やスイーツなどを、セルフサービススタイルで楽しむことができる



発酵食品の旨みを堪能できる
カフェ&レストラン



日本中の発酵食品が
勢ぞろいする発酵市場

全国から集めた選りすぐりの発酵食品がジャンルごとにと並び発酵市場

みんなで創る こうざきプラン



神崎町では、平成23年3月に神崎町第4次総合計画「みんなで創る こうざきプラン」を策定し、10年後に目指す町の将来像を、「発酵の里・健康笑顔のまち こうざき ―みんなで創る 健康・安心・子育て応援のまち―」と決めました。

神崎町第4次総合計画は、平成23年度から平成32年度までの10年間を計画期間とする「基本構想」と、この10年を前期・後期に区切り、それぞれ5年間を計画期間とする「基本計画」、計画期間を3年間として3年ごとに策定する「実施計画」の3層で構成された計画で、現在は、平成26年度から3カ年の実施計画に基づいて、さまざまな施策を推進しています。

基本目標

神崎町第4次総合計画では、まちの将来像「発酵の里・健康笑顔のまち こうざぎ」
— みんなで創る 健康・安心・子育て応援のまち — の実現を図るため、次の通り、
4つの基本目標と8つの施策目標を設定しています。

将来像

発酵の里・健康笑顔のまち こうざぎ

— みんなで創る 健康・安心・子育て応援のまち —

みんなで創る
健康産業のまち



みんなで創る
子育て応援のまち



みんなで創る
安全・安心のまち



みんなで創る
参画と協働のまち



4つの
基本目標

1
発酵の里でいきいきと
交流・定住するまち
こうざぎ

2
こころ豊かな人を育む
教育・文化・スポーツ
のまち こうざぎ

3
人と自然にやさしい
安全・安心のまち
こうざぎ

4
みんなの絆で築く
わたしのふるさと
こうざぎ

8つの
施策目標

1
町の活力を生み出す
健康産業づくり

2
交流と定住を支える
生活基盤づくり

3
教育・子育て応援の
まちづくり

4
一人ひとりが輝く生涯学習・
健康スポーツのまちづくり

5
生涯安心の人にやさしい
健康・福祉のまちづくり

6
安全で緑豊かな
生活環境づくり

7
みんなの絆で取り組む
住民主導のまちづくり

8
協働のまちづくりと
開かれた自治体経営

神崎町第4次総合計画の構成と期間





圏央道開通記念「圏央道・TONEGAWAウォーキング」(平成26年3月29日)



町後援、JR東日本主催の「駅からハイキング」

施策
目標

2

交流と定住を支える 生活基盤づくり

長期的・広域的な視点から、まちの一体的・持続的発展を見据えた計画的な土地利用を推進し、定住の基盤となる中心市街地やまちの顔となる駅周辺の整備などに努めます。

同時に、まちの骨格を形成している幹線道路路網の整備、循環バスの充実、さらにはJR下総神崎駅における結節機能の充実や、ICT時代に対応する情報・通信基盤の整備等に努めます。



町循環バス「きらきら号」

施策
目標

1

町の活力を生み出す 健康産業づくり

自然志向・健康志向のニーズに即した農業の一層の推進を図るとともに、担い手の育成・確保や生産基盤の整備、さらには地産地消体制の充実など環境の変化を踏まえた多彩な農業振興施策を推進します。

また、健康食品として見直されている発酵食品産業の一層の振興と、これと連動し農工商連携の視点で取り組む地域商業や観光交流事業の推進等による産業振興・雇用対策の充実を図ります。

田植え体験で
農業に親しむ



担い手の育成ほか、多様な
農業振興施策を推進



芸術・文化の祭典、神崎町文化祭「芸能発表会」



たんぼぼ広場で「ママもボクも友だちできたよ」

施策
目標

4

一人ひとりが輝く生涯学習・
健康スポーツのまちづくり

文化・スポーツ環境の充実
に努め、すべての町民が学び
続け、自己を高めていくこと
ができる生涯学習社会の形成、
住民主導のスポーツ・文化交
流活動の促進、有形・無形の
貴重な文化財の保存とまちづ
くりへの一層の活用を図りま
す。

さらに、発酵の里等のまち
の特性を生かして、国内外の
都市との活発な交流活動の推
進に努めるとともに、多文化
共生社会づくりを進めます。

施策
目標

3

教育・子育て応援の
まちづくり

教育のまちにふさわしいこ
ころ豊かで確かな学力のある
子どもたちの育成を目指して、
保小中の連携教育など特色あ
る教育活動の推進や学校教育
環境の一層の充実を図るとと
もに、地域教育・青少年の健
全育成の推進を図ります。

また、保育所・学童保育の
充実や地域で支える子育て支
援ネットワークの充実、子育
ての経済的負担への支援を充
実させ、安心して子どもを産
み育てる環境づくりを進めま
す。



誰でも参加できる町ぐるみのイベント「町民運動会」



小学校高学年生が参加する2泊3日の通学合宿



平成26年香取支部消防ポンプ操法大会で、神崎町消防団今・高谷部が9連覇



敬老大会で歌謡ショーを楽しむ町民

施策
目標

6

安全で緑豊かな
生活環境づくり

環境・景観の保全と創造に向けた施策の推進に努めるとともに、新エネルギーの活用や、公園・緑地・水辺の整備等に努めます。

また、上水道、汚水処理と廃棄物については、いずれも適正処理に努め、リサイクルを推進します。

生活安全対策としては、消防・防災体制の充実と危険地区改修等の推進、防犯・交通安全・消費者対策の強化等の充実を図ります。



春にはレンゲの花が美しく咲く

施策
目標

5

生涯安心の人にやさしい
健康・福祉のまちづくり

充実した保健・医療・福祉環境や住民活動が活発な地域特性等を生かし、健康づくり体制・地域医療体制の充実に努めるとともに、助け合い支え合う地域福祉体制づくりを進めながら、介護・自立支援体制の整備等を図ります。

社会保障については、生活保護制度等の適正な運用により低所得世帯の経済的自立と生活意欲の向上を促します。

また、国民健康保険事業の財政運営健全化に努めます。



緊張の乳幼児健診「はい、もう終わりだよ」



石井正夫議長(左)、樫一二副議長



さまざまな地域活動に活用できる「わくわく西の城」

施策
目標

8

協働のまちづくりと 開かれた自治体経営

協働のまちづくりの推進に関する総合的な指針を確立するとともに、住民と行政による協働のまちづくり体制の確立を図ります。

また、公正で開かれた信頼できる町政の構築のため、情報公開の推進、広報広聴活動の充実化を図るとともに、行政改革の推進や職員の養成等に努め、財政運営の健全化や広域連携の推進にも取り組みます。

なお、市町村合併については、今後も研究検討を行っていきます。

施策
目標

7

みんなの絆で取り組む 住民主導のまちづくり

住民主導のまちづくりの基盤を充実・活性化するため、地域性の高い活動やコミュニティリーダーの育成などを支援し、協働のまちづくりを担う新たなコミュニティづくりを推進するとともに、町民のボランティア意識の向上を図る広報・啓発活動の推進や、ボランティア・NPO活動等への支援制度の整備等を図ります。

また、平和で差別のない人権尊重の社会を築くため、人権対策と男女共同参画の推進を図ります。



地域情報をいち早く発信



第14回全国菜の花
サミットin神崎





復旧後の田んぼ (神崎神宿)



液状化の被害を受けた田んぼ (神崎神宿)



液状化で川底から土砂が噴き出し、ブロック
タイルは崩壊 (こうざき天の川公園)



土台が崩壊したトイレ (こうざき天の川公園)



復旧後のこうざき天の川公園



復旧後のこうざき天の川公園



排水路が隆起し崩壊した道路 (神崎本宿)



復旧工事



復旧後の道路 (神崎本宿)



復旧後の神崎川護岸



崩壊した神崎川護岸

神崎町

震災復興のあゆみ

平成23年3月11日に発生した東日本大震災。
神崎町内では、利根川沿いの町北部を液状化による陥没・隆起が襲い、
住宅、道路、橋、農地等に甚大な被害を受けました。
町では、これまでに住民の生活・安全を第一に復旧工事に全力を挙げて
取り組み、日常の生活の平常を取り戻してきました。
震災から4年が過ぎたいま、神崎町は、夢と希望の持てるまちに向けて
大きく進み出しています。

被害状況

人的被害: 死亡者・重症者・行方不明者なし
被災建物: 約290戸(全壊5戸、大規模半壊36戸、半壊56戸、一部損壊193戸)

町道被害: 延長4,925m

水門被害: 神崎樋管護岸崩壊

神崎大橋: 落橋防止装置崩壊、基礎杭一部損壊

上水道被害: 神宿浄水場破損、排水管破損 延長3,500m

農業関係被害

農地液状化面積: 110ha

農業用施設の被害: 揚水機場・パイプライン破損1,166m、排水路破損4,586m

水稻被害 作付不能: 30ha、収量減: 約17トン

農産物の出荷制限、風評被害による価格下落や販売量の低下

被災・復旧概要

平成23年

3月11日 東日本大震災発生。液状化現象により住宅や道路・水道のライフライン、農業施設に甚大な被害を受けた

4月19日 早期震災復旧を図るため、神崎町ライフライン復旧対策委員会を設置して国や千葉県への要望活動を開始

5月17日 神崎大橋に基礎杭の損傷が確認され、全面通行止めに

6月6日 町内公共施設の空气中放射線量の測定を実施。いずれも文部科学省による子どもの屋外活動を制限する暫定的目安を大きく下回った

6月6～15日 国による町道・農業用施設の災害査定が実施される

7月12日 千葉県防災危機管理監が神崎町を視察

7月20日 本宿4区・向野地区にて、国による水道配水管の災害査定が実施される

7月31日 震災で破損した瓦・ブロックの役場受け入れを終了

8月1日 防災行政無線情報メール(携帯電話)の配信を開始

8月1日 住宅再建促進のため、神崎町被災者住宅再建資金利子補給事業が始まる

8月17日 神崎町が「特定被災地方公共団体」並びに「特定被災区域」に指定される

8月22日 商工会と町で、茨城と神崎を結ぶ無料バスの運行を開始(12月9日まで)

9月 町道・上水道等のライフライン、農業用施設の本格復旧工事が始まる

12月7日 神崎大橋の暫定交通開放

平成24年

2月 本宿4区、向野地区の水道配水管を地震に強い耐震管に布設替する工事が完了

3月21日 東日本大震災での活動が評価され、神崎町消防団が財団法人千葉県消防協会会長特別表彰を受賞

3月 町道新町松崎線開通。町内の液状化被害の復旧道路工事がすべて完了

6月 神崎樋管復旧工事完了。これで町内被災公共施設の修復工事がすべて完了

12月 防災対策として「神崎町防災マニュアル」を作成し、町内全戸に配布

平成25年

3月 神崎大橋の災害復旧工事が完了し完全復旧

11月 神宿浄水場の移転復旧工事が始まる(平成27年3月完成、4月から給水予定)



泥水が噴き出し冠水した空き地(神崎神宿)



崩壊した神崎浄水場



復旧後の空き地(神崎神宿)



更地となった神崎浄水場の跡地



移転復旧工事中の新たな浄水場

神崎町

60年史



現在の中学校体育館建設前にあった鍋店別荘(昭和30年代)



神崎船橋の開通を祝う大祝賀会(昭和34年)

昭和30年

1955

- 神崎町、米沢村が合併し、新生神崎町が発足
- 町営渡舟実施

昭和31年

1956

- 神崎中、米沢中が統合し、神崎町立神崎中学校が創立
- 神崎・多古間国鉄バス開通

昭和32年

1957

- 有線放送電話が開通
- 道路舗装工事を開始
- 町営火葬場、神崎小学校給食室を新設
- 古利根川、江口川埋立
- 「郡駅」から「下総神崎駅」に駅名変更

昭和34年

1959

- 神崎町中央公民館が完成
- 神崎船橋が開通
- 簡易水道新設工事が開始

昭和36年

1961

- 青年研修所が完成
- 水田畑地灌漑施設竣工

昭和38年

1963

- 神崎保育所を開設
- 給食センターが開設(完全給食)
- 佐原市外4町清掃組合を設置

昭和41年

1966

- 茨城県東村・河内村より向野地区が千葉県に

- 割譲され、神崎町に編入
- 神崎音頭制定

昭和42年

1967

- 神崎大橋が開通

昭和43年

1968

- 神崎小学校新校舎が完成
- 工業団地用地の買収が始まる

昭和47年

1972

- 第一回町民文化祭を開催
- 工業団地一部創業開始

昭和48年

1973

- 米沢保育所を建設
- 香取郡西部地区湛水防除事業工事が着工
- 農業振興整備計画が樹立される

昭和49年

1974

- 電話自動化
- 県道佐原我孫子線が国道356号線に昇格決定
- 国鉄成田線電化 ○地籍調査事業が開始

昭和52年

1977

- 県立神崎青年の家、植房農村館が完成
- 大貫池土地造成工事が着工
- 町民相談所を開設

昭和53年

1978

- 神崎中学校体育館完成
- 神崎町青年団結成
- 第1回神崎タートリンピックを開催
- 水田利用再編対策が始まる

昭和54年

1979

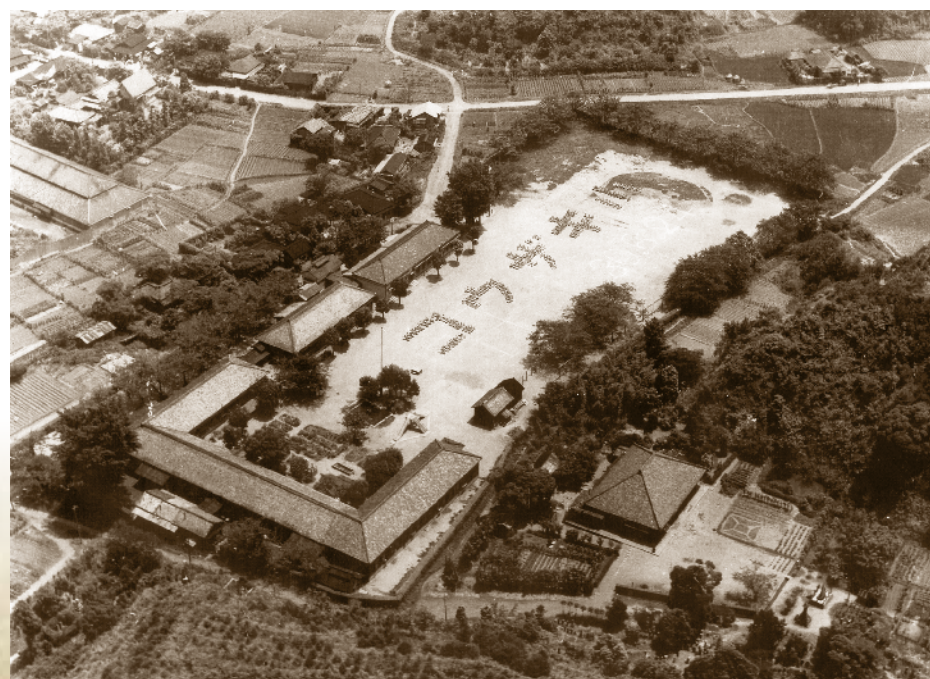
- 第1回町民のつどいを開催
- 県立香取養護学校を開校

昭和55年

1980

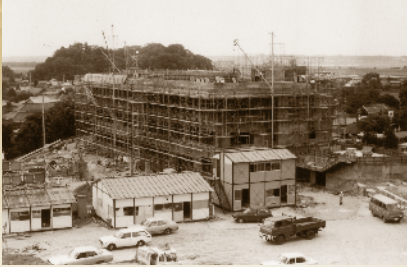
- 役場新庁舎が完成
- 大貫コミュニティセンター、郡・武田やすらぎの家、並木青年館が完成

神崎小学校旧校舎と校庭に描かれた人文字(昭和30年)



火渡修業の日、賑わう河岸通り(昭和30年代)





役場新庁舎の建設工事(昭和55年)



日本国有鉄道・下総神崎駅(昭和50年)



整備が進む神崎工業団地(昭和49年)

昭和56年	1981	○町簡易水道浄水場が完成し、給水開始 ○町民憲章制定 ○新集落センターが完成
昭和57年	1982	○町民グラウンド、向野集落センター、神宿コミュニティセンターが完成 ○神崎中学校校庭拡張・新校舎建設着工
昭和59年	1984	○結婚相談所を開設
昭和60年	1985	○立野コミュニティセンターが完成 ○神崎町新総合計画を策定
昭和61年	1986	○本宿・毛成のコミュニティセンターが完成 ○本宿ほ場基盤整備事業が完了
昭和62年	1987	○米沢小学校新校舎、出羽第4コミュニティセンターが完成
昭和63年	1988	○交通死亡事故ゼロ2500日達成(1月27日) ○原宿コミュニティセンターが完成
平成元年	1989	○スポーツコミュニティ広場が完成
平成2年	1990	○平成の風モニュメント、平成コミュニティセンターが完成
平成4年	1992	○きたふれあいセンターが完成
平成5年	1993	○小松コミュニティセンター、こうざき自然遊歩道が完成

平成6年	1994	○第1回ふれあい福祉大会を開催 ○横町・松崎・四季の丘のコミュニティセンターが完成 ○神崎町老人保健福祉計画を策定 ○水道課を新設
平成7年	1995	○神崎町商工会館、古原浄水場、高谷コミュニティセンターが完成 ○町道武田古原線が開通
平成8年	1996	○神崎小学校新校舎、成城台コミュニティセンターが完成
平成9年	1997	○こうざき天の川公園、神崎西部ライオンセンター、古原コミュニティセンターが完成
平成10年	1998	○神崎西部地区ほ場整備事業が完了 ○ふれあい親水公園、学校給食センター、神崎ステーションホールが完成 ○国道356号下総神崎間バイパス開通
平成11年	1999	○下総神崎駅北側広場、堺コミュニティセンターが完成
平成12年	2000	○町道並木植房立向線開通 ○神崎東部地区・南部地区ほ場整備事業完了 ○郡江口コミュニティセンター完成 ○民生課を町民課に改称、保健福祉課を新設
平成13年	2001	○植房地先でナウマン象の歯・下顎の化石が発見される ○神崎大橋側道橋開通 ○神崎ふれあいプラザが完成 ○神崎町第3次総合計画を策定

平成14年	2002	○国道356号佐原神崎間バイパス開通 ○千葉などの花県民会議を開催
平成15年	2003	○佐原市外五町消防組合西分遣所が完成 ○今コミュニティセンターが完成
平成16年	2004	○下総神崎駅南側広場が完成 ○町民課に税務課を統合 ○千葉県立神崎青年の家が神崎町に移管される
平成17年	2005	○1市4町の有志で空港圏合併実現に向けた推進連絡会発足、神崎町で第1回会議を開催
平成18年	2006	○企画課、産業課、建設課、水道課を統合し、まちづくり課を新設 ○旧千葉県立神崎青年の家に「わくわく西城」がオープン ○町道武田毛成線が開通
平成22年	2010	○こうざき船着場が完成。試験運用を開始
平成23年	2011	○東日本大震災発生。液状化現象により道路や水道、農地などに甚大な被害が及ぶ ○神崎町第4次総合計画を策定
平成25年	2013	○「全国発酵食品サミットinこうざき」開催 ○町のPRマスコットキャラクター「なんじゃもん」誕生 ○震災で損傷した神崎大橋が完全復旧
平成26年	2014	○圏央道稲敷IC、神崎ICが開通 ○「発酵の里こうざき」を商標登録 ○道の駅「発酵の里こうざき」の建設が始まる

圏央道稲敷IC～神崎IC開通(平成26年)



全国発酵食品サミットinこうざき(平成25年)



神崎ふれあいプラザ完成(平成13年)



御宝巡景

神崎の歴史・風土に育まれた文化遺産を訪ねて



神崎神社

今から1300年前の白鳳時代に太浦沼ニツ塚（現在の茨城県）よりこの地に遷座したもので、祭神は航空、交通、産業守護の神として知られる天鳥船命（あめのとりふねのみこと）。



おかべ観音

楽満寺観音（成田市）、樹林寺観音（香取市）と合わせて、関東の「臨済の三観音」といわれ、近郷近在から信仰を集めています。



県指定天然記念物

神崎森

神崎神社の社叢林（しゃそうりん）として大切に守られてきた森で、ヤブニッケイ、タブノキ、スダジイ、ヤブツバキ、シダなどが生い茂る学術上でも貴重な原生林。



弘法大師八十八か所霊場

おかべ観音の観音堂の裏に大師山と呼ばれる小高い丘があり、四国八十八か所が迎えられています。丘を一周すると八十八か所を巡ることができます。



国指定天然記念物

神崎の大クス

神崎神社社殿の右脇にあるクスノキ。水戸光圀公が神社を訪れたときに「この木は何というもんじゃろうか」と自問自答したことから「なんじゃもんじゃの木」と呼ばれています。



神宮寺

神崎神社の別当寺として創建された真言宗寺院。朱色の仁王(写真右上)が収められた仁王門(写真上)は江戸中期の建立、「大悲閣」とも呼ばれる観音堂(写真左)は元禄年間の建立とされています。



県指定有形文化財(彫刻)

木造十一面観音立像

神宮寺観音堂に安置された木造十一面観音立像は、1本のカツラ材から仏面から足先まで彫り出した一本造で、11世紀後半から12世紀初頭の製作とされています。



県指定天然記念物

神崎のオハツキイチョウ

葉とその元からでる実の枝がくっつき、葉に種子がついているように見える大変珍しいイチョウ。神崎小学校の開校を記念して、明治33年に植樹されました。



県指定史跡

西の城貝塚

縄文時代早期初頭のころのもので、主に淡水と海水の接点に生息するヤマトシジミが発掘されています。国内最古に属する貝塚で、県下でも貴重な貝塚として知られています。

町指定天然記念物

古原八幡神社巨木群

古原八幡神社の境内に群生する針葉樹、広葉樹の林には、スギ、カヤ、ケヤキ、タブなどの巨木が林立しています。



暮らしを彩る 施設ガイド



① こうざきふれあい自然遊歩道

緑の木立と四季折々の花に、鳥のさえずり、多彩な昆虫が迎える自然の宝庫。コース内に神宮寺観音堂などもあり、自然観察と併せて文化探勝も楽しめます。



④ 神崎ふれあいプラザ

町の文化、教育、福祉、健康づくりの拠点。さまざまな活動に利用される文化ホール、図書室、そして、町福祉行政の中核をなす保健福祉館がそろう複合施設です。



③ わくわく西の城

研修室や屋内運動場、グラウンド、陶芸室などがあり、さまざまな地域活動に誰でも気軽に利用できる交流スポット。敷地内には西の城貝塚もあります。



② こうざき天の川公園

水田のための用水路を利用した、水辺の自然を満喫できる憩いの場。観察池では、絶滅危惧種に指定されている「オニバス」が、毎年8月に赤紫色の花を咲かせます。



⑦ 神崎ステーションホール

JR下総神崎駅と合築の多目的ホールで、アーチ形の屋根は神崎大橋をモチーフにしています。ホール内では町特産品の展示や写真展などが行われます。



⑥ こうざき船着場

プレジャーボートなどが降ろせる船舶昇降用スロープや大型駐車場があり、バス釣りなどの水上レジャーが楽しめる施設です。



⑤ 神崎教育の森ツリーハウス

テレビ番組の企画で、木の上に作られた2棟のツリーハウス。森の中にひっそり建つ秘密基地のような佇まいが冒険心をくすぐります。



⑨ 神崎中学校



⑧ 神崎町役場

KOZAKI TOWN MAP



⑩ 神崎小学校



⑪ 米沢小学校



⑬ 米沢保育所



⑫ 神崎保育所



7



1



2



6



5



4



3



3

発酵の里こうざき

歳彩 ごみ

2月

神崎神社 節分祭 7

毎年2月3日の節分の日に、家内安全、商売繁盛を祈願して節分祭が行われます。氏子代表の年男による豆まきが始めると、福を呼び込もうとたくさんの方がつけかけ、境内は熱気で包まれます。

12月

神崎ステーションホールイルミネーション 6

JR下総神崎駅ステーションホールをきらびやかなクリスマスイルミネーションで装飾するイベント。点灯式から1月までの期間中毎日、日没から最終電車到着の時間まで点灯します。

11月

なんじゃもんじゃいきいきフェスティバル 4

毎年11月23日に、神崎町ふれあいプラザ駐車場で開催されるイベント。地域の特産品を販売する出店などが集まるほか、ステージではアトラクションショーなど多彩な催しが行われます。

ミルクィウェイ・フェスタ 5

神崎町商工会が主催し、なんじゃもんじゃいきいきフェスティバルと同日開催される花火大会。こうざき天の川公園を会場に、秋の夜空を花火で彩ります。

10月

河川敷祭 3

利根川河川敷を会場に、毎年10月第2月曜日に開催。プレジャーボートの体験乗船やコスモスの花摘みなどが楽しめます。見どころは神崎寺伝統の「火渡修業」。山伏姿の僧が燃え盛る炎の中を素足で通り抜けます。

7月

祇園祭 2

無病息災、五穀豊穡を祈願して、各地区で行われる祇園祭。神崎本宿地区の祇園祭は町内最大規模で、御神輿の渡御や山車の曳き廻しが行われ、毎年多くの見物客でにぎわいます。

3月

発酵の里こうざき酒蔵まつり 1

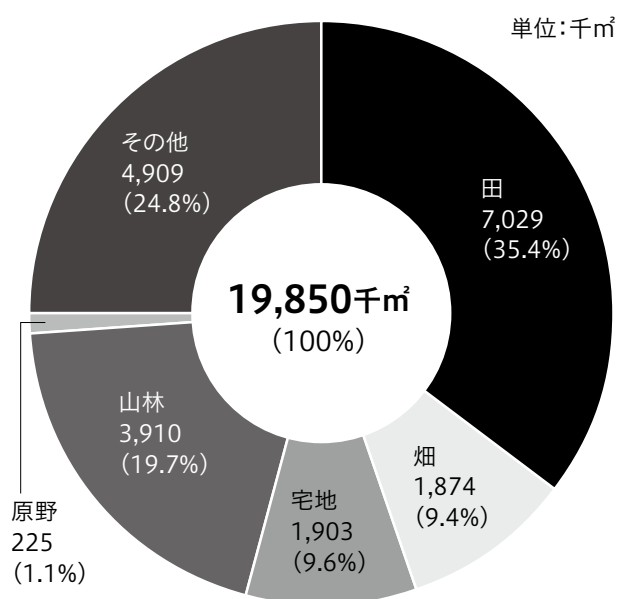
酒蔵まつりは、3月中旬の日曜日、町内の蔵元2軒を中心に開催されるイベントです。伝統ある酒蔵の見学や試飲ができるほか、地元特産品などを販売する出店が多数連なり、周辺街道は多くの観光客であふれます。

DATA

でみる 神崎

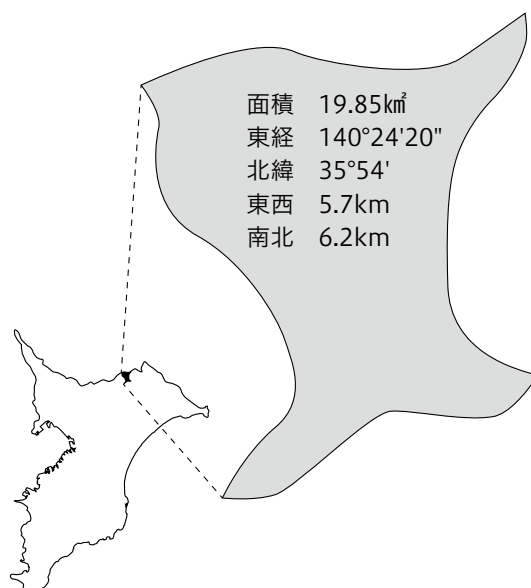
位置・地目別土地面積 …	33
気象・人口 ……………	34
生活基盤 ……………	35
教育 ……………	36
保険・福祉・文化 ………	37
産業 ……………	38
財政 ……………	39
行政・議会 ……………	40

地目別土地面積



資料：町民課税務係(平成26年1月1日現在)

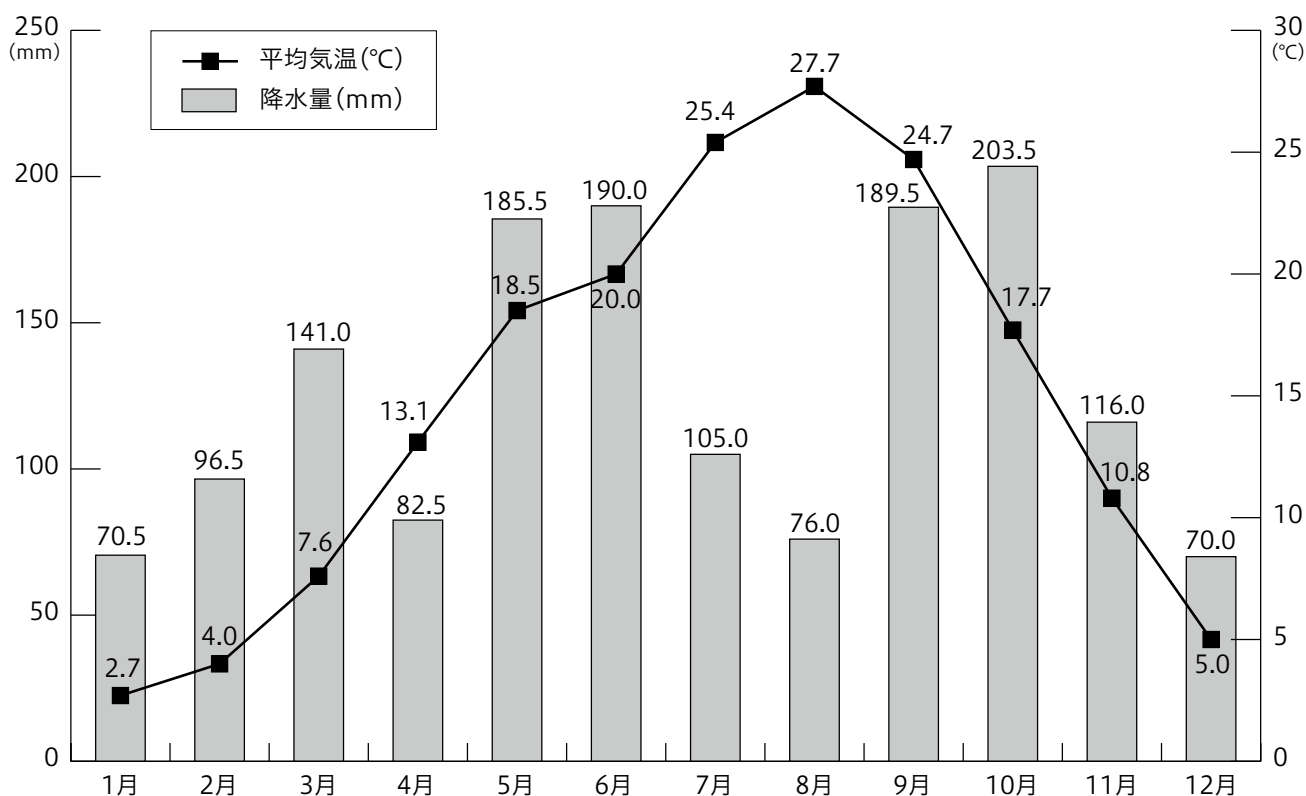
位置



地勢は概ね平坦で、南東部はなだらかな丘陵地帯で畑、山林が大半を占め、北部の平地には肥沃な田が広がっている。

気象

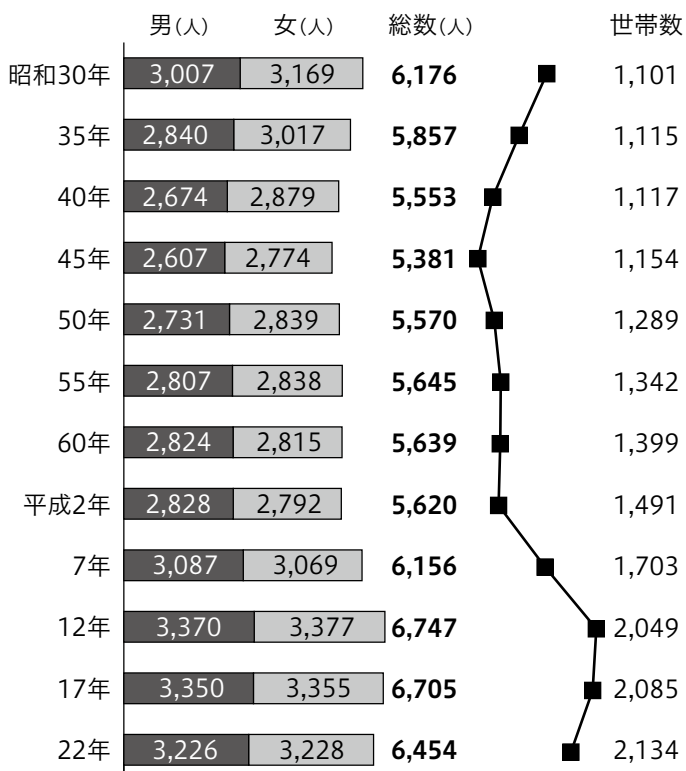
月別平均気温・降水量



資料：消防年報(平成24年)

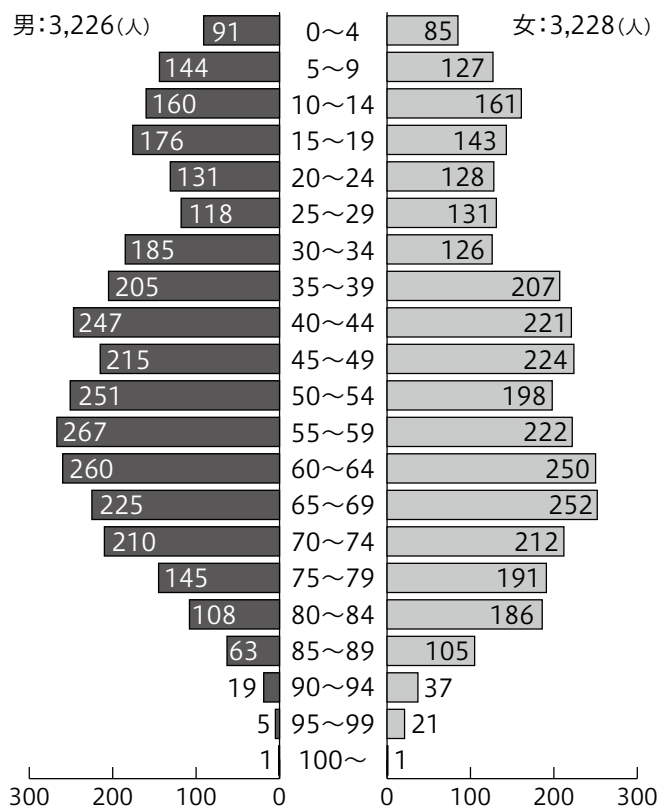
人口

世帯数および人口の推移



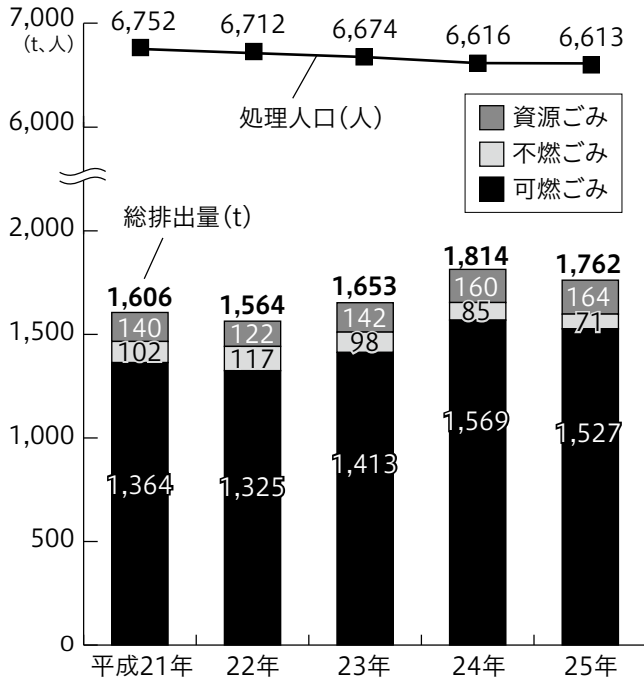
資料：国勢調査(各年10月1日現在)

年齢別人口



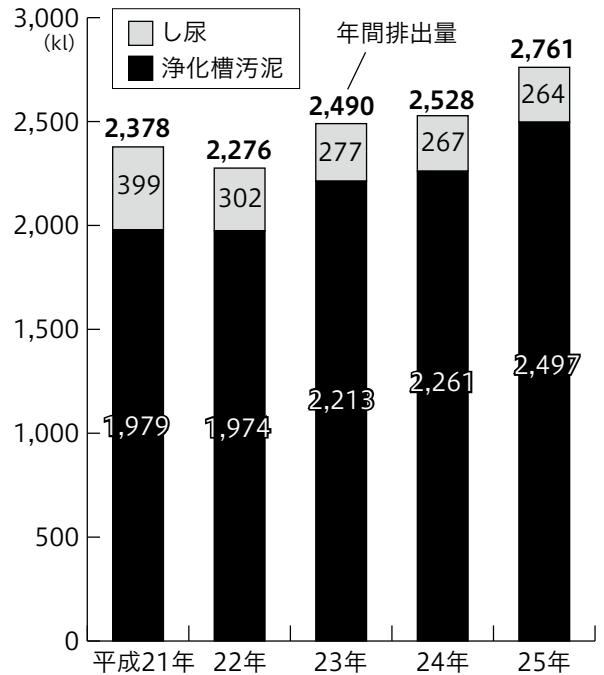
資料：国勢調査(平成22年10月1日現在)

■ごみ処理の状況(生活系)



資料：一部事務組合資料

■し尿処理の状況

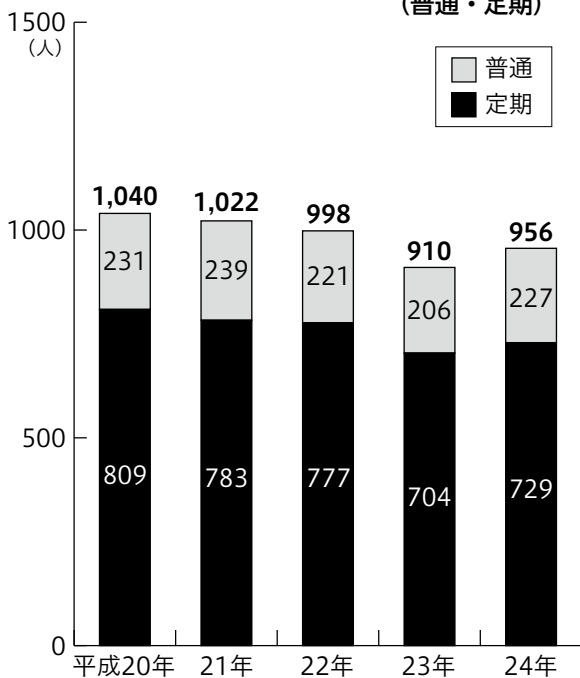


資料：一部事務組合資料

■上水道の状況

区分 年次	行政区域内 人口	給水区域内 人口 <A>	給水人口 	普及率 <B/A>	給水量			導送配水管 延長(m)
					年間給水量 (m³)	1日最大 給水量(m³)	1日平均 給水量(m³)	
平成21年	6,712	6,995	5,205	74.4	597,743	1,961	1,638	78,864
22年	6,674	6,957	5,229	75.2	600,399	2,108	1,645	79,019
23年	6,616	6,895	5,225	75.8	535,657	1,915	1,464	79,104
24年	6,525	6,807	5,224	76.7	518,637	1,777	1,421	79,123
25年	6,460	6,731	5,177	76.9	528,773	1,766	1,449	84,718

資料：まちづくり課水道係(各年3月31日現在)

■JR下総神崎駅1日平均乗車人数
(普通・定期)

資料：千葉県統計年鑑

■国・県道の状況

路線名	神崎町分				
	実延長 (m)	舗装済 延長(m)	舗装率 (%)	改良済 延長(m)	改良率 (%)
国道356号	3,343	3,343	100	3,340	99.9
国道356号 バイパス	5,870	5,870	100	5,870	100
江戸崎 神崎線	2,938	2,938	100	2,938	100
郡停車場 大須賀線	5,016	5,016	100	4,027	80.3

資料：香取土木事務所(平成25年4月1日現在)

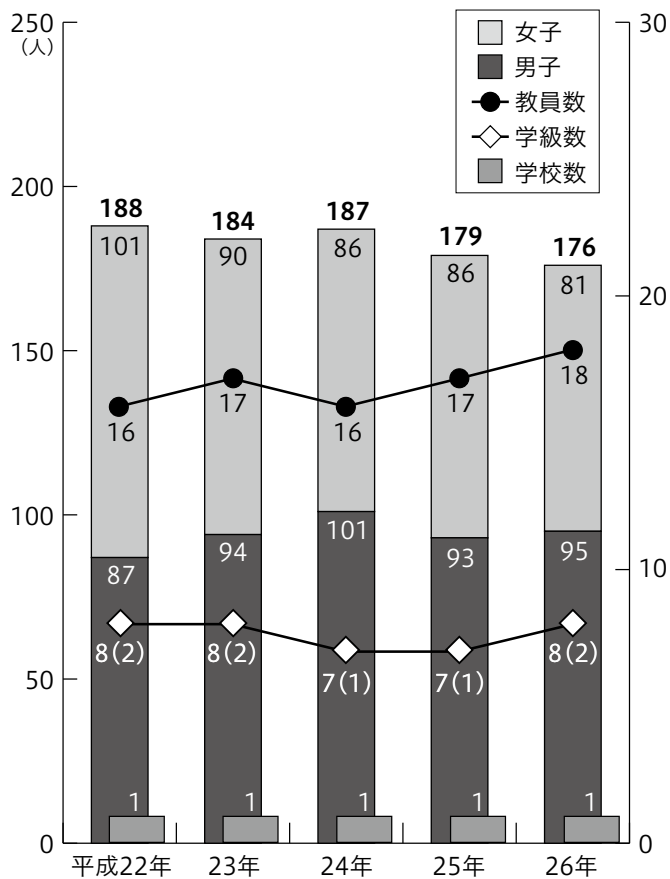
■町道の状況

区分	実延長 (km)	舗装済 延長(km)	舗装率 (%)	改良済 延長(km)	改良率 (%)
平成21年	96,860	90,352	93.3	66,620	68.8
22年	96,860	90,352	93.3	66,620	68.8
23年	96,860	90,352	93.3	66,620	68.8
24年	96,860	90,352	93.3	66,620	68.8
25年	100,354	93,188	92.9	70,114	69.9

資料：まちづくり課建設係(各年3月31日現在)

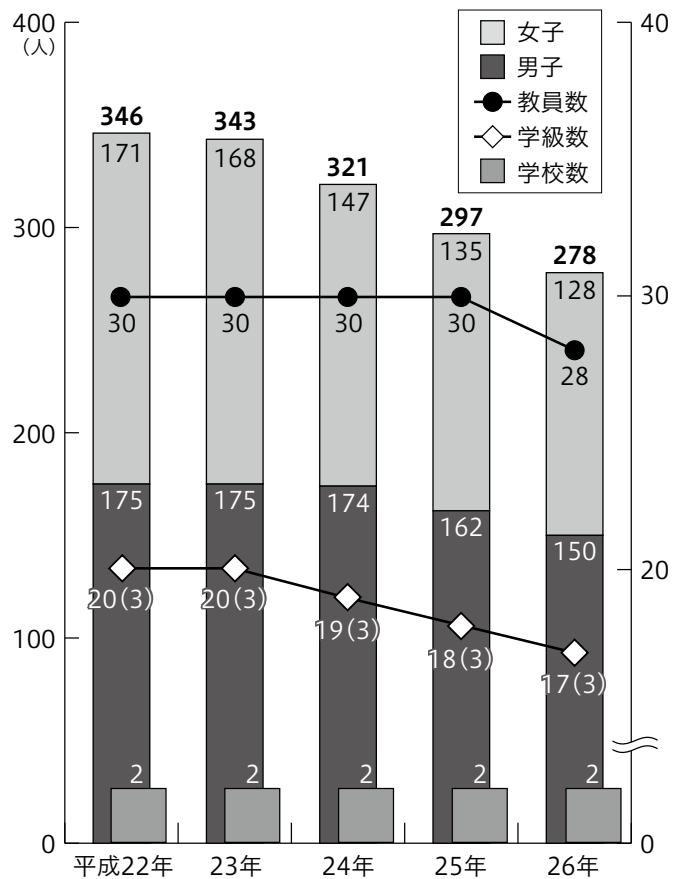
教育

■中学校の概況



資料：学校基本調査(各年5月1日現在) ※ ()内は特別支援学級の数

■小学校の概況



資料：学校基本調査(各年5月1日現在) ※ ()内は特別支援学級の数

■体育施設利用状況

	区分	平成21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
町民野球場	利用日数(日)	233	217	224	288	286
	利用率(%)	65.1	60.6	62.6	81.1	79.7
町民庭球場	利用日数(日)	182	116	69	91	92
	利用率(%)	49.9	31.8	18.9	24.9	25.2
町民体育館	利用日数(日)	213	251	256	326	276
	利用率(%)	59.5	70.1	71.5	91.8	75.6

資料：教育委員会

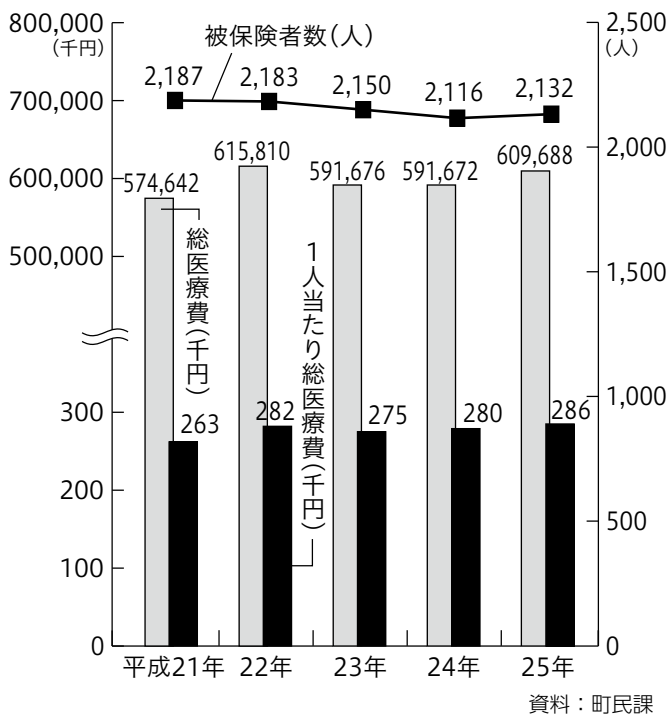
■図書室利用状況

区分	蔵書冊数	うち文学書数	うち児童書数	貸出登録者数	貸出冊数
平成21年度	17,668	4,482	4,947	2,587	22,113
22年度	18,329	4,862	5,103	2,653	21,585
23年度	19,277	5,194	5,226	2,759	19,751
24年度	19,404	5,260	5,266	2,777	18,826
25年度	20,706	6,035	5,537	3,028	18,747

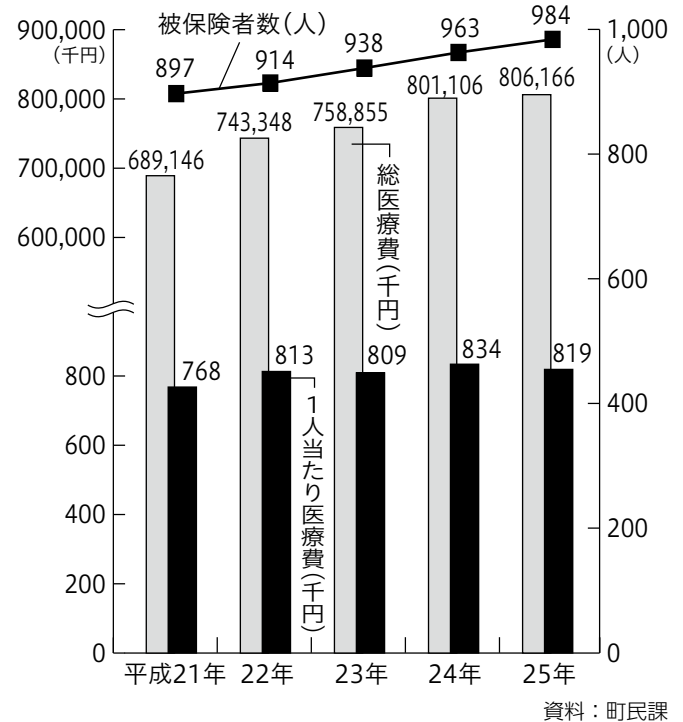
資料：教育委員会(各年3月31日現在)

保険・福祉

■国民健康保険加入・給付状況



■後期高齢者医療保険加入・給付状況



■介護保険の状況

年度	区分	認定者数			居宅介護サービス利用者数	介護施設入所者数
		合計	1号被保険者	2号被保険者		
平成21年		243	234	9	140	45
22年		260	250	10	141	50
23年		252	243	9	134	51
24年		290	278	12	149	50
25年		285	277	8	166	58

資料：保健福祉課(各年3月31日現在)

文化

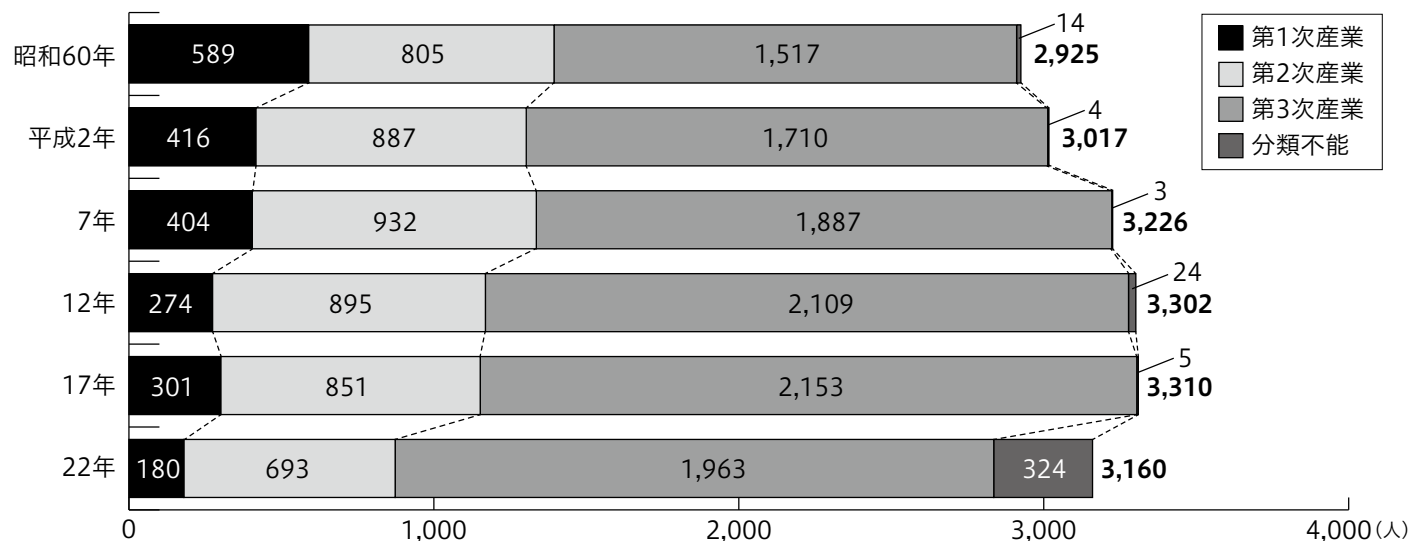
■指定文化財

指定区分	番号	種類	名称	所定指定地・番地	所有者	指定年月日	員数面積
国	1	有形文化財(建物)	株式会社寺田本家醸造蔵	神崎本宿 1964	(株)寺田本家	平成11年 7月 8日	1棟
	2	天然記念物	神崎の大クス	神崎本宿 1944	神崎神社	大正15年10月10日	1樹
県	1	天然記念物	神崎森	神崎本宿 1944他	神崎神社	昭和10年 8月23日	
	2	天然記念物	神崎のオハツキイチョウ	神崎本宿 96	神崎町	昭和40年 4月27日	1樹
	3	史跡	西の城貝塚	並木671	千葉県	昭和41年12月 2日	
	4	有形文化財(書物)	神崎神社文書	神崎本宿 1944	神崎神社(県立中央博物館大利根分館に寄託)	昭和45年 4月17日	1巻
	5	有形文化財(書物)	神宮寺文書	並木642	神宮寺(県立中央博物館大利根分館に寄託)	昭和45年 4月17日	2箱
	6	有形文化財(彫刻)	木造十一面観音立像	並木642	神宮寺	昭和63年 3月30日	
町	1	天然記念物	古原八幡神社巨木群	古原甲50他	八幡神社	昭和52年 3月 2日	
	2	有形文化財(建物)	武田八幡宮本殿	武田541-1	武田区	昭和56年 8月 5日	
	3	有形文化財(建物)	並木神宮寺観音堂	並木642	神宮寺	昭和59年 3月 8日	
	4	有形文化財(建物)	並木神宮寺仁王門	並木642	神宮寺	昭和59年 3月 8日	
	5	有形文化財(歴史資料)	郡台公会堂板碑	郡1619	宝珠院	昭和62年11月10日	

資料：教育委員会

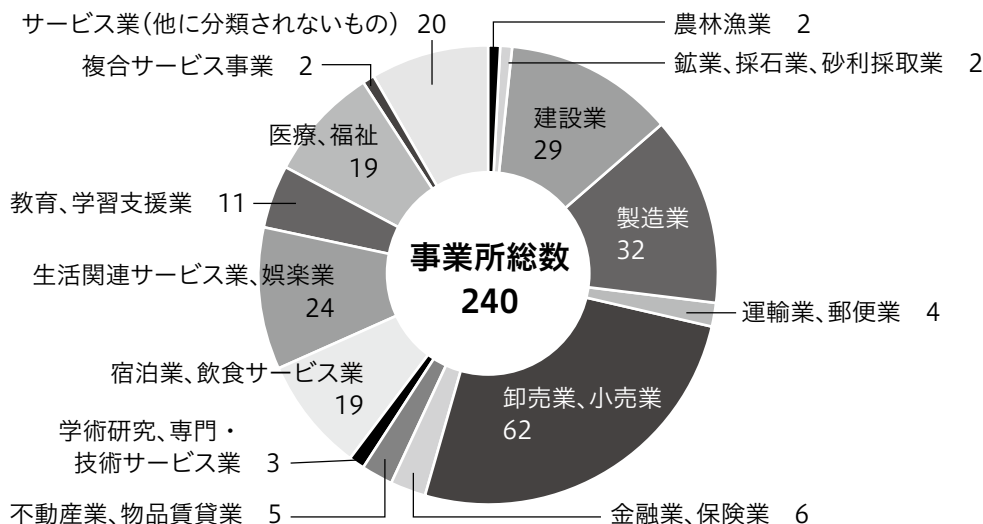
産業

産業別就業者人口の推移



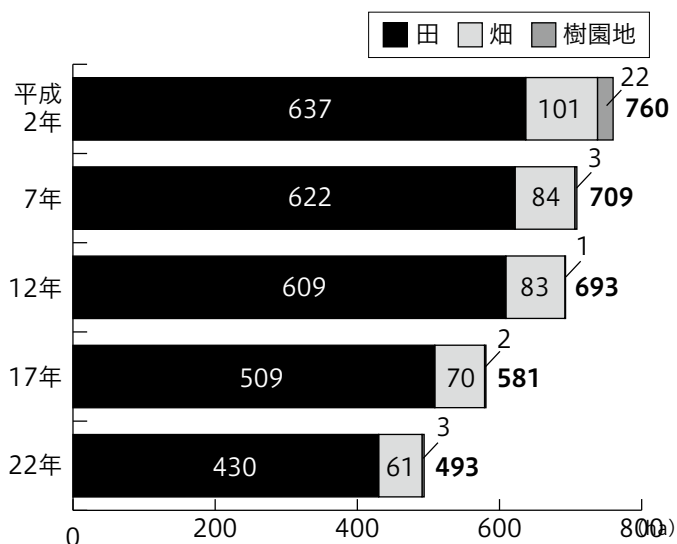
資料：国勢調査(各年10月1日現在)

産業別事業者数



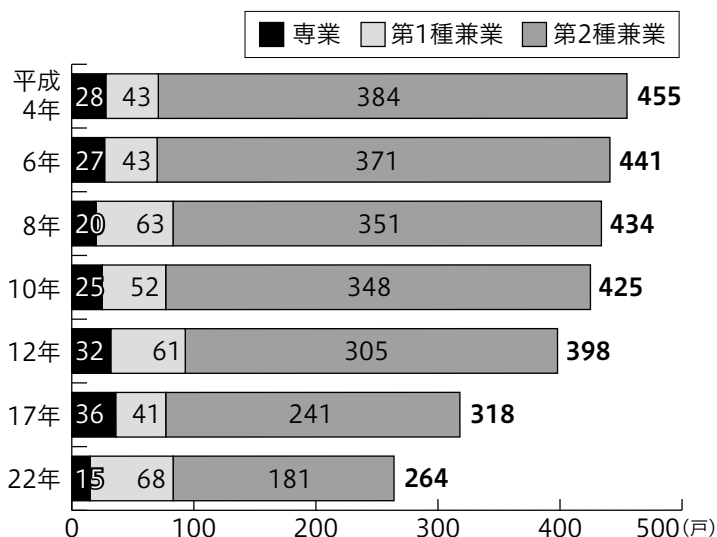
資料：経済センサス(平成24年2月1日現在)

経営耕地面積の推移



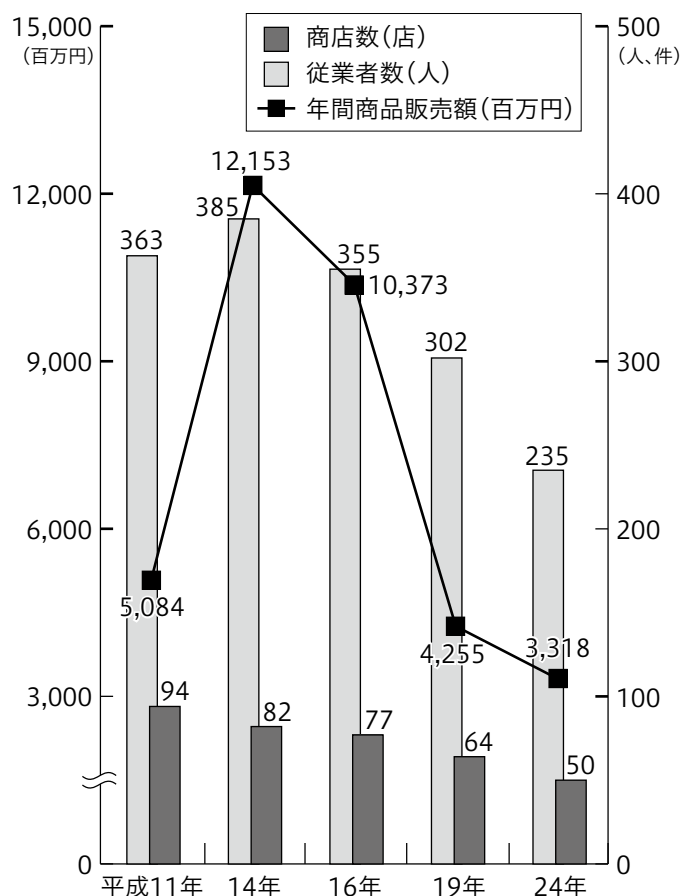
資料：農林業センサス、世界農林業センサス(各年2月1日現在)
※1ha未満を四捨五入で処理しています。

農家数の推移



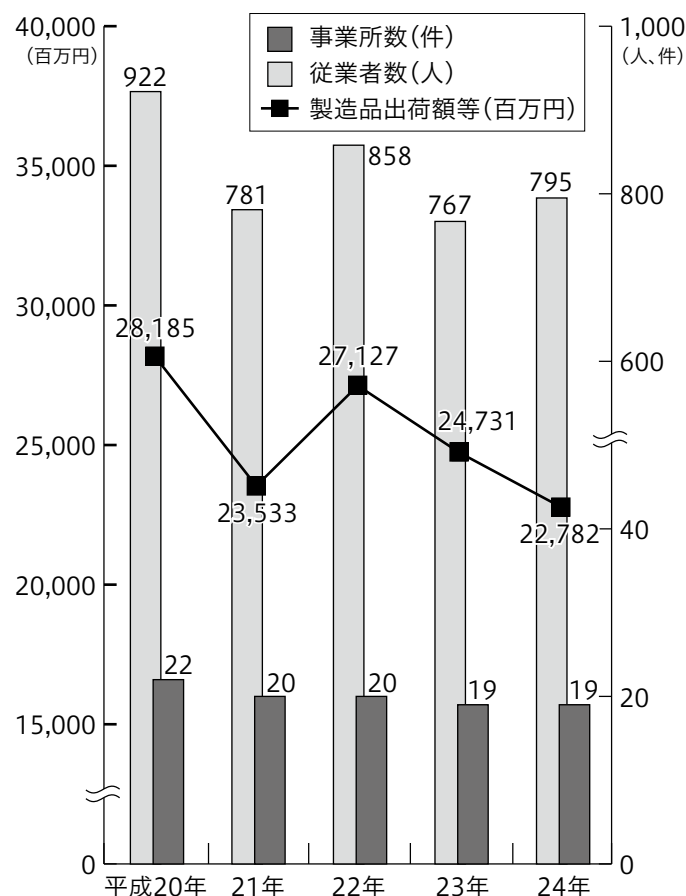
資料：農業基本調査、農林業センサス(各年2月1日現在)

商業の推移



資料：商業統計調査、経済センサス

工業の推移



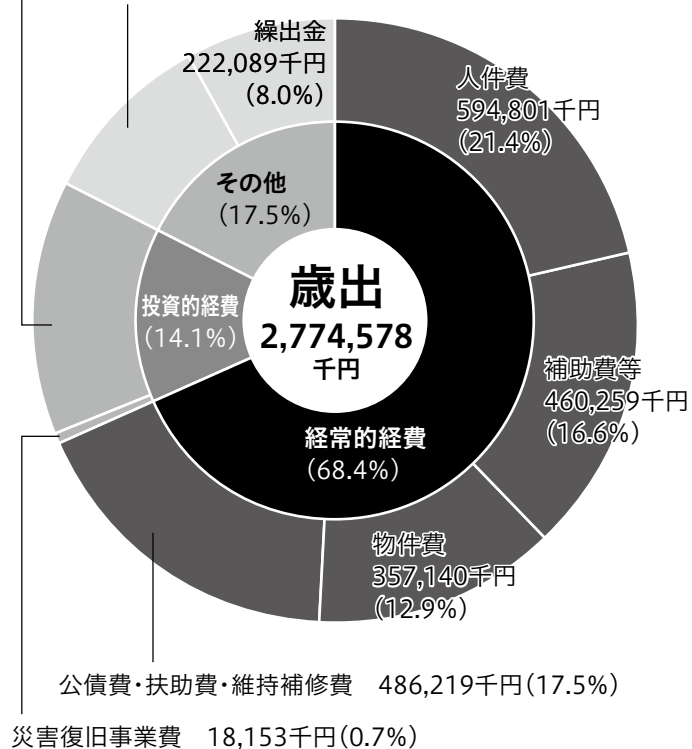
資料：工業統計調査 (各年12月31日現在)

財政

平成25年度普通会計決算

普通建設事業費 372,601千円(13.4%)

積立金・出資金・貸付金 263,316千円(9.5%)

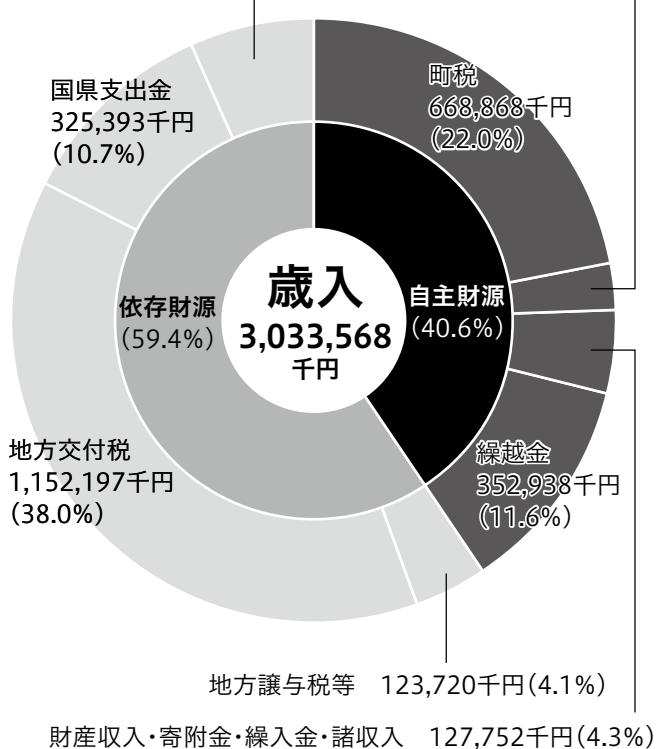


町債

199,122千円(6.6%)

分担金・負担金・使用料・手数料

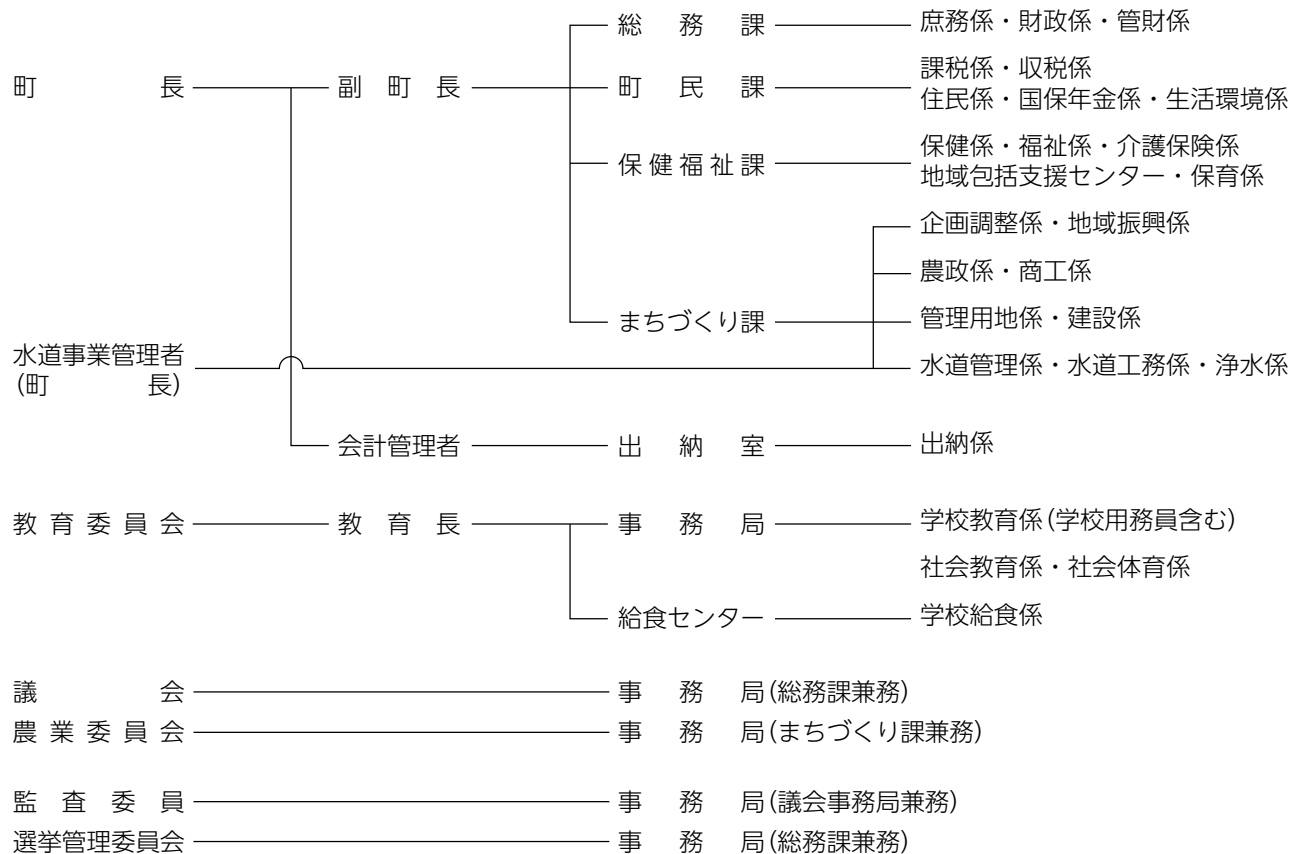
83,578千円(2.7%)



資料：総務課

行政・議会

行政組織図



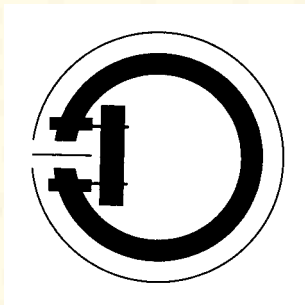
平成 26 年 4 月 1 日現在

歴代町長

歴代	氏名	期間
初代・第2代	寶田 直	昭和30年5月19日～昭和38年5月18日
第3代～第6代	石田 重善	昭和38年5月19日～昭和54年5月18日
第7代・第8代	石橋 博	昭和54年5月19日～昭和62年5月18日
第9代～第13代	後藤 好男	昭和62年5月19日～平成16年4月20日
第14代～第16代	石橋 輝一	平成16年5月23日～

歴代議長

歴代	氏名	期間
初 代	郡司 寅松	昭和30年4月19日～昭和30年7月31日
第 2 代	久松 武太	昭和30年8月 1日～昭和34年7月31日
第 3 代	大塚 重善	昭和34年8月 1日～昭和38年4月22日
第 4 代	石橋 謙治	昭和38年5月14日～昭和38年7月31日
第 5 代	天羽 準一	昭和38年8月 1日～昭和40年9月15日
第 6 代	木村 政章	昭和40年9月18日～昭和42年7月31日
第 7 代	池上 友雄	昭和42年8月 1日～昭和46年7月31日
第 8 代	平田 公佐	昭和46年8月 1日～昭和50年7月31日
第 9 代	平田 公佐	昭和50年8月 1日～昭和54年7月31日
第10代	北崎 義男	昭和54年8月 1日～昭和58年7月31日
第11代	木内 喜一	昭和58年8月 1日～昭和60年8月 8日
第12代	廣瀬 太郎	昭和60年8月 9日～昭和62年7月31日
第13代	山口 文雄	昭和62年8月 1日～平成 3年7月31日
第14代	飯田 光男	平成 3年8月 1日～平成 5年7月31日
第15代	石井 浩	平成 5年8月 1日～平成 7年7月31日
第16代	平田 公佐	平成 7年8月 1日～平成11年7月31日
第17代	鈴木 仁	平成11年8月 1日～平成15年7月31日
第18代	岡野 公男	平成15年8月 1日～平成18年9月22日
第19代	野口 喜平	平成18年9月22日～平成19年7月31日
第20代	寶田 久元	平成19年8月 1日～平成21年8月10日
第21代	岡野美喜雄	平成21年8月10日～平成23年7月31日
第22代	成毛 績	平成23年8月 1日～平成25年8月 7日
第23代	石井 正夫	平成25年8月 7日～



町章

町名の「コウザキ」を図案化したもので、町の和と発展の願いを込めて作成されました。



町の木 クスノキ

昭和48年に千葉県で開催された国民体育大会を記念して、神崎神社の神木「なんじゃもんじゃの木」にちなんで「樟(くす)の木」を町の木として選定しました。



町の花 バラ

平成7年度に行われた「神崎町合併40周年記念事業」のひとつとして、町民から一般公募した結果、町の花として「バラ」が制定されました。



町の鳥 メジロ

「町の花」と併せて一般公募し、制定されました。町の木である「樟(くす)の木」とともに、自然と人とふれあいの町づくりを目指す本町のシンボルとして親しまれています。

町民憲章

私たちは、先人の築かれた教育の町として伝統を守り育てながら、道義と秩序を基調とする健全な町づくりをめざして、この憲章を定めます。

(昭和56年6月15日制定)

一、自然を愛し住みよいまちをつくりましょう。

一、知性と文化の豊かなまちをつくりましょう。

一、思いやりのある温かいまちをつくりましょう。

一、スポーツに親しみ楽しいまちをつくりましょう。

一、きまりを守り明るいまちをつくりましょう。



(左から)朝日副町長、石橋町長、大野教育長

神崎町議会議員





町のマスコットキャラクター

なんじゃもん

神崎神社にある「なんじゃもんじゃ」の木の分身で、神崎町の守り神。年齢は2000歳。お酒と発酵食品が大好きで、お祭り好きのおちゃめな照れ屋さん。しめ縄をさわると願い事が叶うといわれています。



町制60周年記念 神崎町町勢要覧2015

発酵の里・健康笑顔のまち

こうざき

発行	千葉県神崎町 千葉県香取郡神崎町神崎本宿163番地 TEL 0478-72-2111(代) http://www.town.kozaki.chiba.jp
発行日	平成27年3月
編集	神崎町まちづくり課
制作	株式会社エリート情報社 印刷出版局